

小規模企業景気動向調査 [2026年2月期調査]**～売上額は若干改善も業況は低下、外部環境リスクへの警戒が強まる小規模企業景況～****<産業全体>**

2月期の産業全体の景況は、売上額DIがわずかに上昇、採算・資金繰りDIは変化なく、業況DIはわずかに低下した。需要は横ばいでも客数減少や廃業・人手不足等、地域や業種ごとに課題は異なる。価格転嫁の難しさから採算悪化を懸念する声が散見される中、中東情勢による原油高等の外部環境リスクへの警戒が高まっており、先行きには注意を要する。

	DI	1月	2月	前月比	前年 同月比
売上額		3.2	4.8	1.6	▲ 0.1
採算	▲	18.2	▲ 17.8	0.4	▲ 0.2
資金繰り	▲	15.5	▲ 15.6	▲ 0.1	▲ 0.9
業況	▲	14.5	▲ 15.9	▲ 1.4	▲ 0.9

<製造業(食料品、繊維、機械・金属)>売上額・採算は小幅改善も、繊維の回復遅れが目立つ製造業

製造業は売上額・採算DIが小幅に上昇、資金繰りDIはわずかに上昇し、業況DIはわずかに低下した。食料品、機械・金属関連で売上額・採算・資金繰りDIが上昇。一部で設備投資や新商品の販売等、改善の声も見られた。他方、繊維関連は全DIが低下。コスト高が継続する中、特に小規模企業は受注減少や大手企業との価格競争等により、採算が取れずに苦戦している。世界情勢等の影響もあり、全体としては先行きに不透明感が残る。

	DI	1月	2月	前月比	前年 同月比
売上額		3.8	7.3	3.5	▲ 1.1
採算	▲	20.1	▲ 17.8	2.3	0.4
資金繰り	▲	16.9	▲ 15.0	1.9	▲ 1.5
業況	▲	16.6	▲ 17.6	▲ 1.0	▲ 1.3

<建設業>売上は堅調も、工期延長等の影響で、収益・資金面に課題が残る建設業

建設業は、売上額DIが小幅に上昇、資金繰りは変化なく、採算・業況DIはわずかに低下した。地域や事業者によって状況は異なるが、除雪関連需要や都市部の大型工事、住宅改修需要等により、売上額DIは堅調に推移。新築需要も一部で回復の兆しが見られたが、資材高騰や人手不足、元請依存による価格交渉難が採算を圧迫している。工期延長による資金繰りへの影響もある中、地域差・繁閑差等もあり、受注の安定化が課題。

	DI	1月	2月	前月比	前年 同月比
売上額		11.5	14.2	2.7	0.8
採算	▲	14.3	▲ 14.9	▲ 0.6	▲ 3.5
資金繰り	▲	13.9	▲ 13.9	0.0	▲ 0.8
業況	▲	8.6	▲ 9.6	▲ 1.0	▲ 0.7

<小売業(衣料品、食料品、耐久消費財)>前月から採算は持ち直すも、買い控えとコスト高が重荷の小売業

小売業は、採算DIがわずかに上昇、売上額・資金繰り・業況DIは不変であった。耐久消費財関連は、季節需要が奏功し全DIが上昇したが、仕入価格や人件費の増加に吸収され、採算改善は限定的。衣料品関連は、特に地方では大手企業との競合による客数減少の声が大きくなり、資金繰りに融資を活用しているとの声も見られる。上代設定等で価格決定に制約がある事業者もあり、付加価値提案が課題である。

	DI	1月	2月	前月比	前年 同月比
売上額	▲	0.8	▲ 0.5	0.3	1.5
採算	▲	23.3	▲ 21.8	1.5	3.7
資金繰り	▲	19.2	▲ 19.2	0.0	▲ 0.3
業況	▲	20.9	▲ 21.3	▲ 0.4	0.3

<サービス業(旅館、クリーニング、理・美容)>旅館・クリーニングで全DIが低下、慎重感強まるサービス業

サービス業は、売上額・採算DIがわずかに低下し、資金繰り・業況DIは小幅に低下した。旅館、クリーニング関連で、全DIが低下。旅館関連は、降雪や訪日客増の影響で稼働は堅調、中国からの団体客減少の影響は限定的との声がある一方、料金上昇等による国内客減や閑散期の売上減も指摘されている。クリーニング関連は、需要減とコスト増で価格転嫁が引き続きの課題。理・美容関連は概ね前年並みだが、コスト増が重荷となっている様子。

	DI	1月	2月	前月比	前年 同月比
売上額	▲	1.5	▲ 2.0	▲ 0.5	▲ 1.8
採算	▲	15.3	▲ 16.7	▲ 1.4	▲ 1.1
資金繰り	▲	12.1	▲ 14.3	▲ 2.2	▲ 1.1
業況	▲	12.0	▲ 15.4	▲ 3.4	▲ 2.3

調査概要

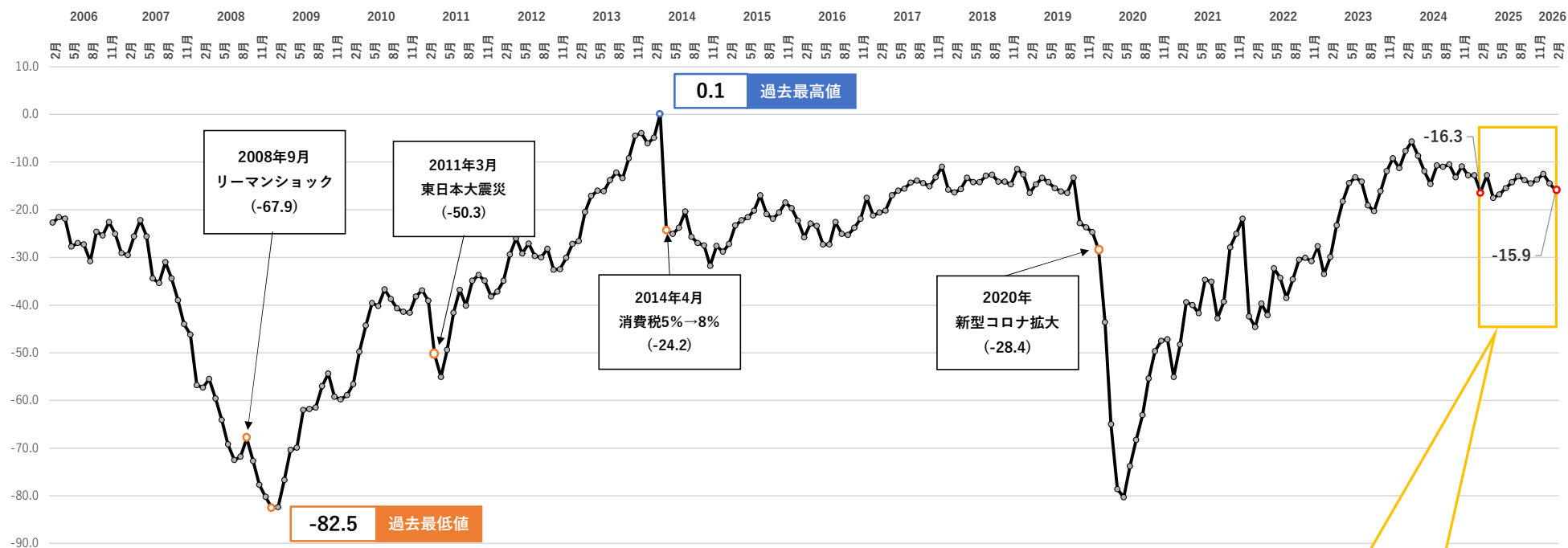
・調査対象：全国 303 商工会の経営指導員（有効回答数：229/回答率 75.6%）

・調査時点：2026 年 2 月末

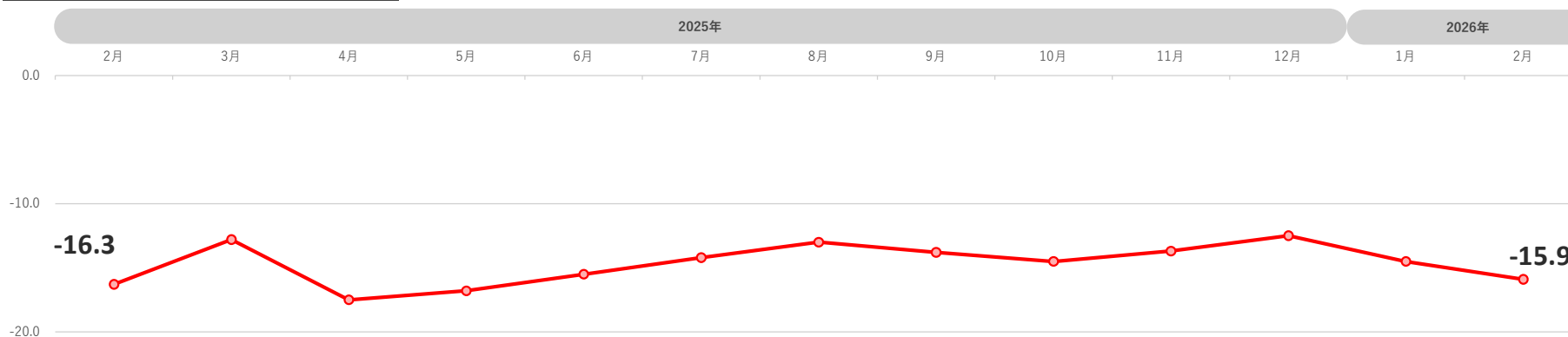
・調査方法：対象商工会経営指導員による調査票への選択記入式

※ DI(景気動向指数)は各調査項目について、増加(好転)企業割合から減少(悪化)企業割合を差し引いた値を示す。

小規模企業景気動向調査 産業全体の業況DIグラフ～過去20年のトレンド～



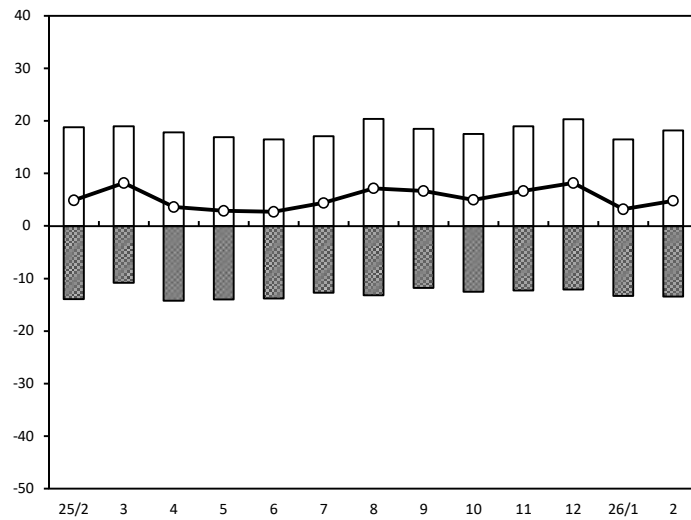
産業全体の業況DIグラフ～直近1年間～



小規模企業景気動向調査(2026年2月期)

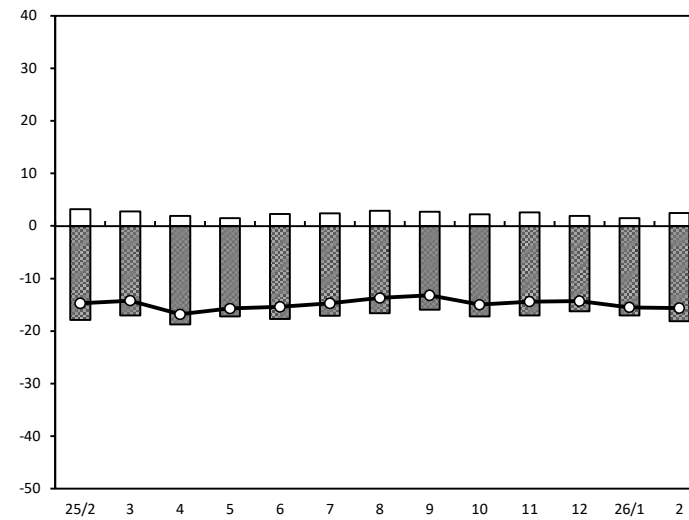
産業全体(前年同月比)

売上額



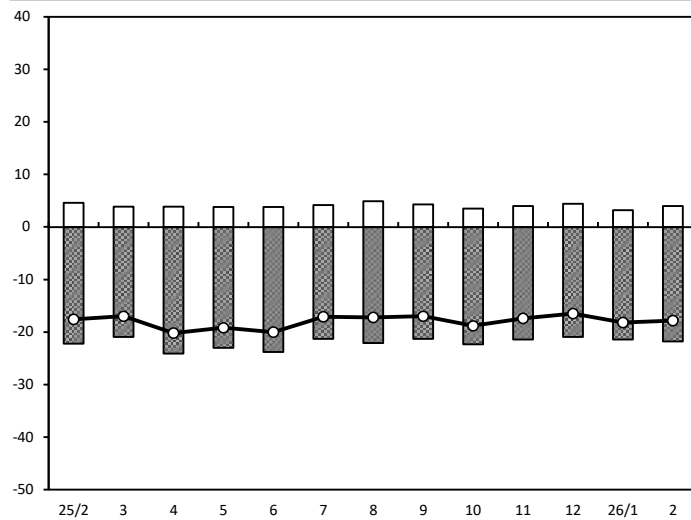
(年月)

資金繰り



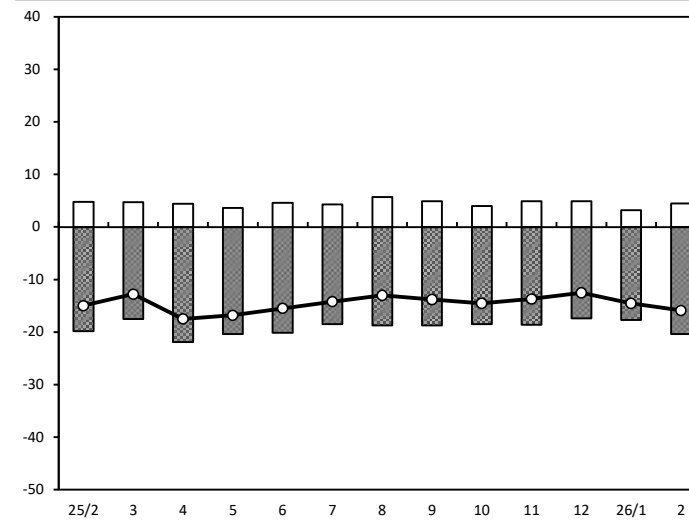
(年月)

採算



(年月)

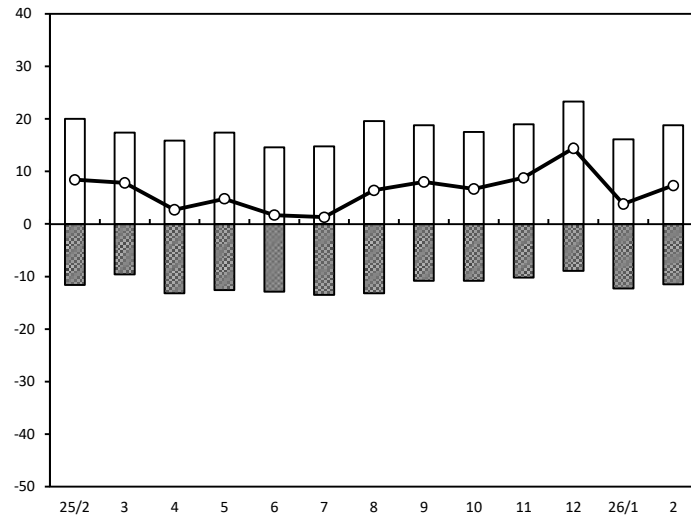
業界の業況



(年月)

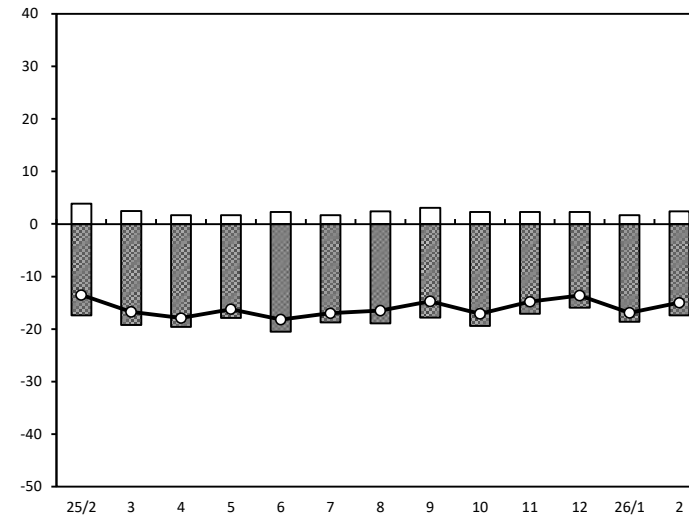
製 造 業(前年同月比)

売上額



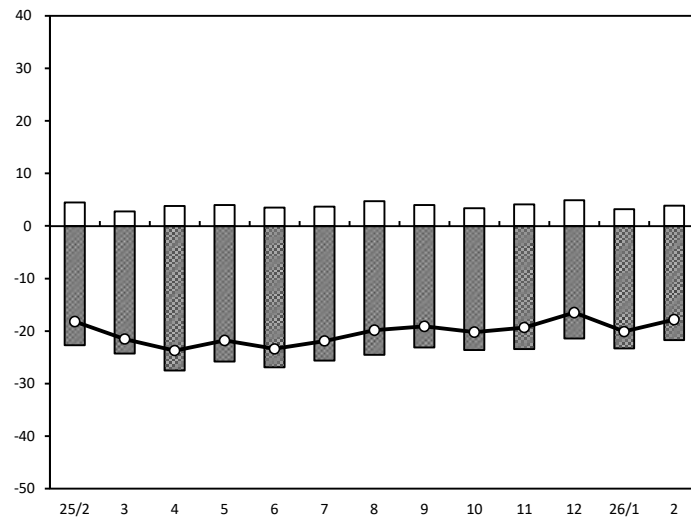
(年月)

資金繰り



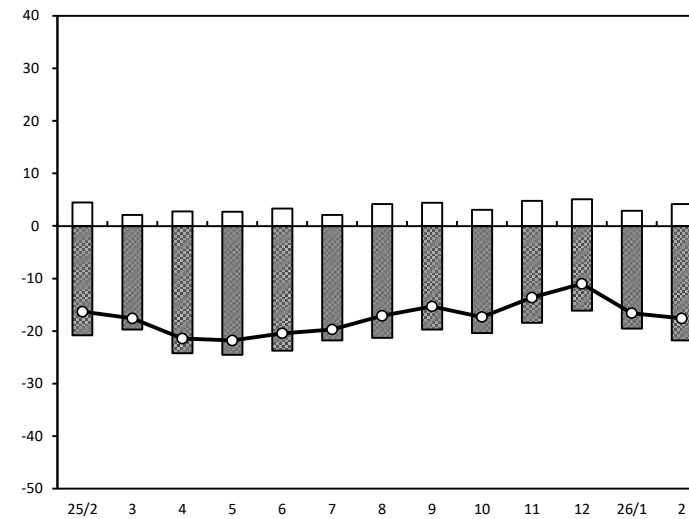
(年月)

採算



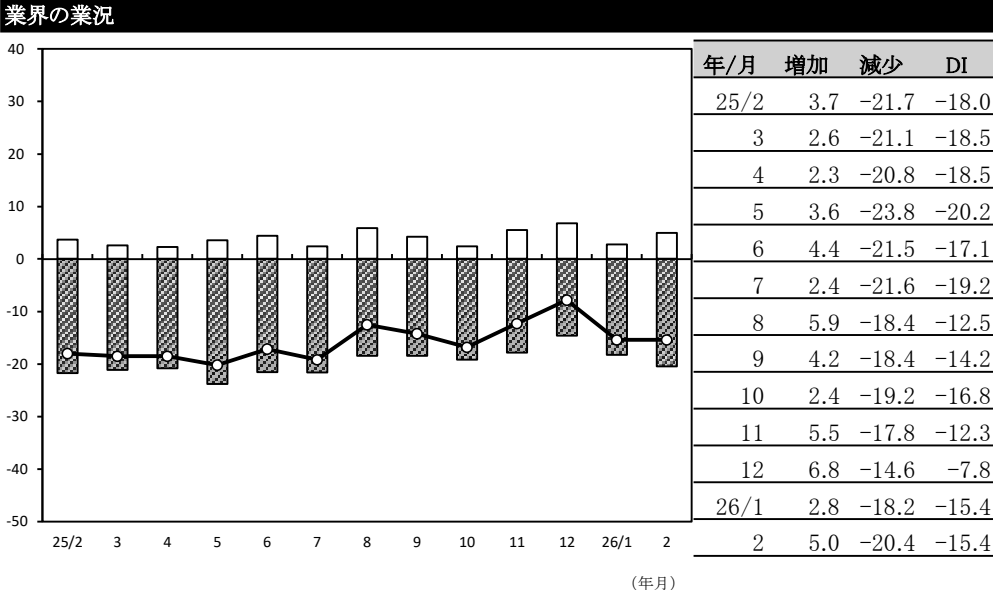
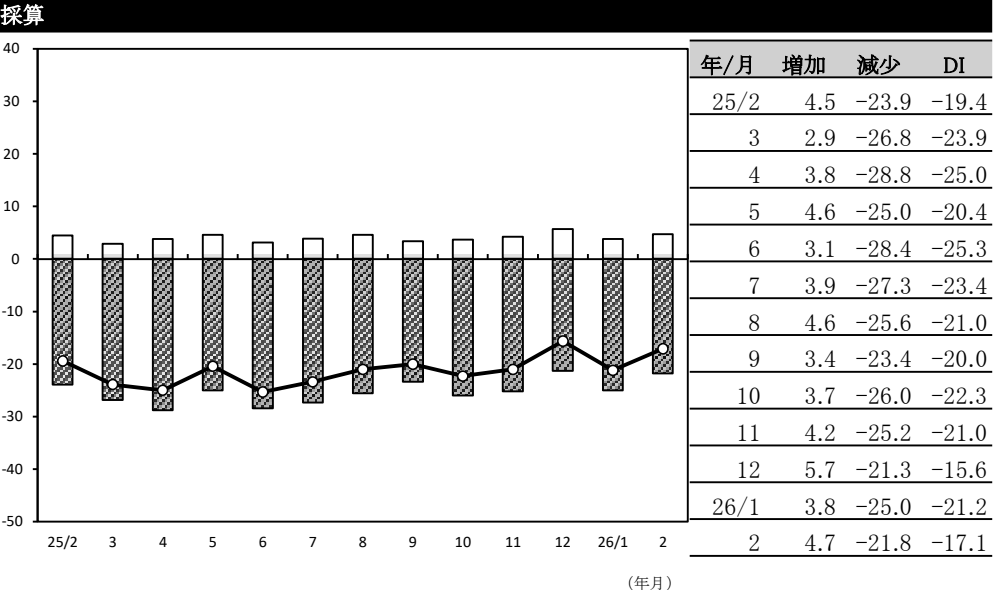
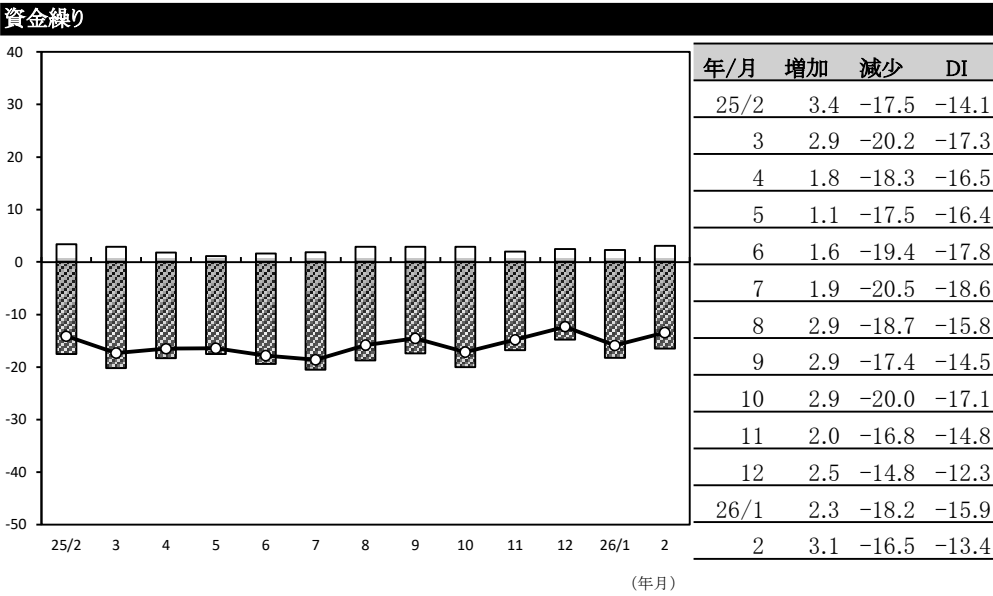
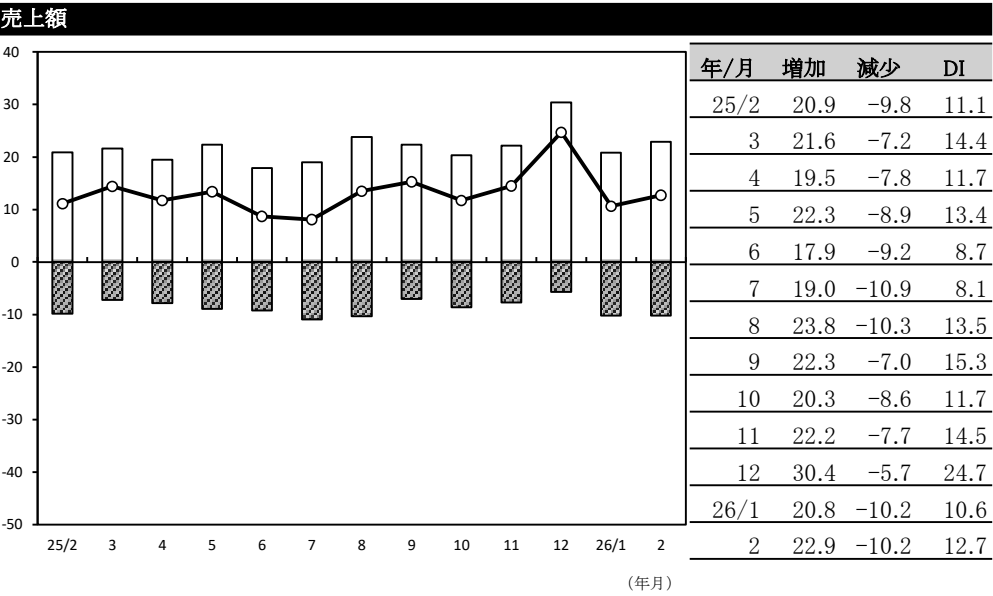
(年月)

業界の業況



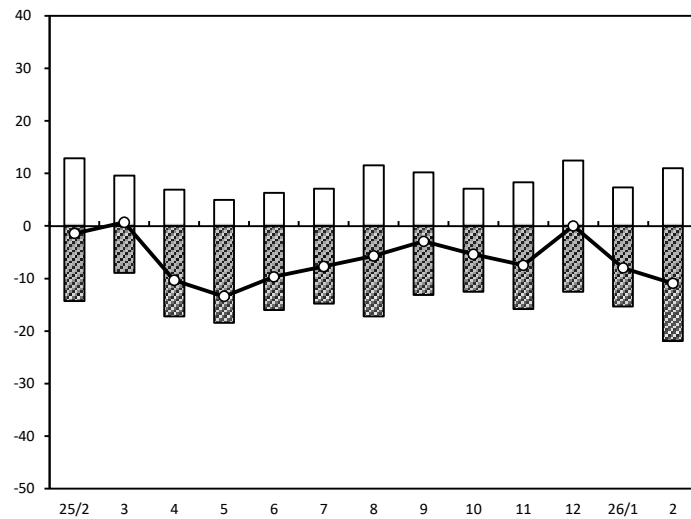
(年月)

製 造 業【食料品】（前年同月比）



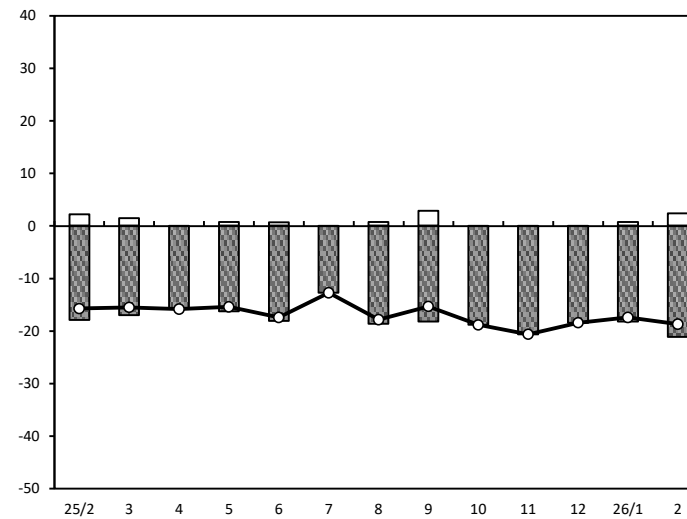
製 造 業【繊維】（前年同月比）

売上額



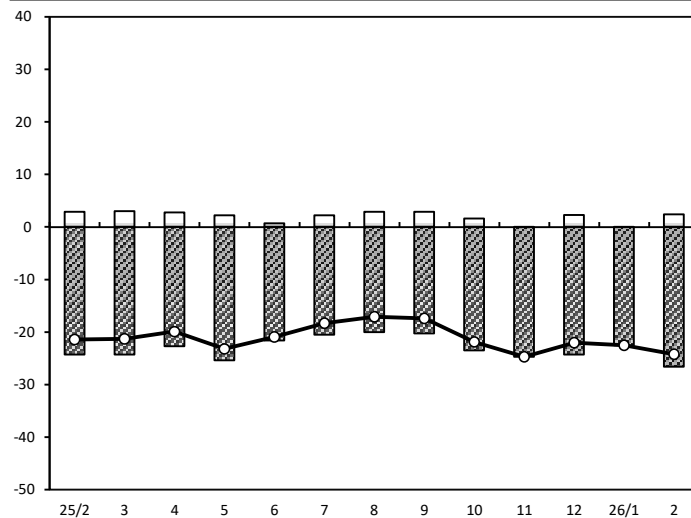
(年月)

資金繰り



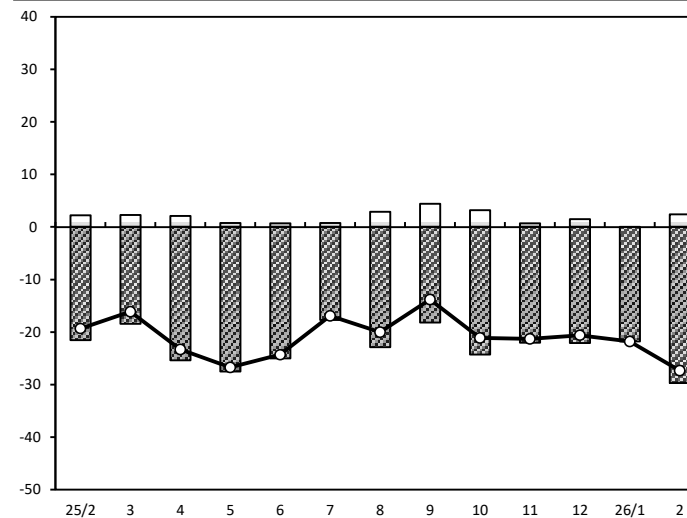
(年月)

採算



(年月)

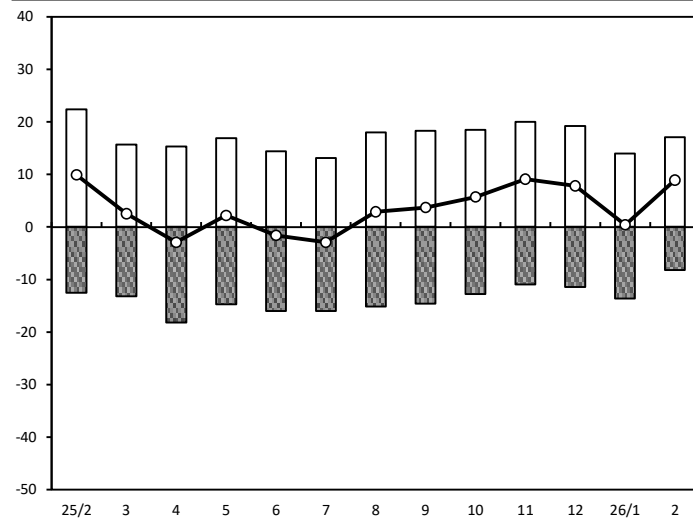
業界の業況



(年月)

製 造 業【機械・金属】（前年同月比）

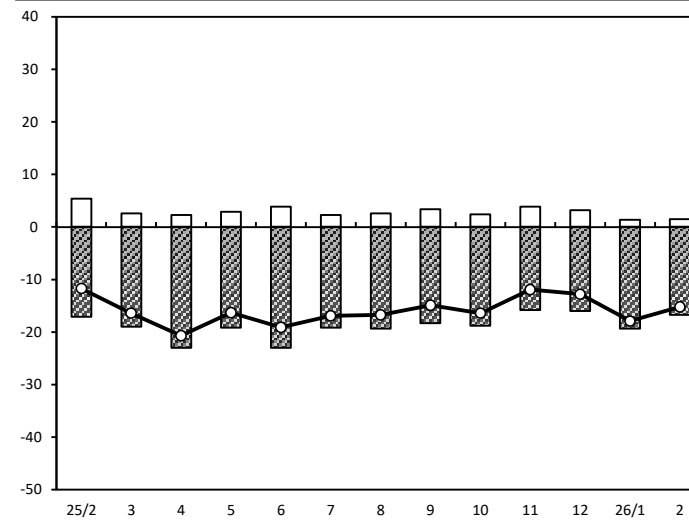
売上額



年/月	増加	減少	DI
25/2	22.4	-12.5	9.9
3	15.7	-13.2	2.5
4	15.3	-18.2	-2.9
5	16.9	-14.7	2.2
6	14.4	-16.0	-1.6
7	13.1	-16.0	-2.9
8	18.0	-15.1	2.9
9	18.3	-14.6	3.7
10	18.5	-12.8	5.7
11	20.0	-10.9	9.1
12	19.2	-11.4	7.8
26/1	14.0	-13.6	0.4
2	17.1	-8.2	8.9

(年月)

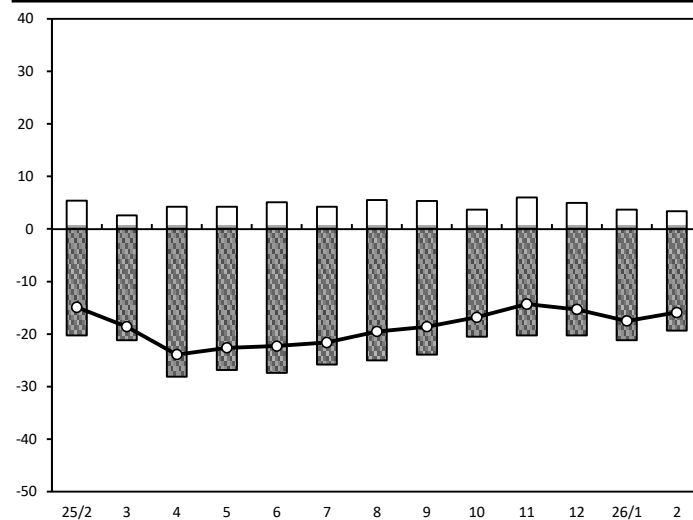
資金繰り



年/月	増加	減少	DI
25/2	5.4	-17.1	-11.7
3	2.6	-19.0	-16.4
4	2.3	-23.0	-20.7
5	2.9	-19.2	-16.3
6	3.9	-23.0	-19.1
7	2.3	-19.2	-16.9
8	2.6	-19.3	-16.7
9	3.4	-18.3	-14.9
10	2.4	-18.8	-16.4
11	3.9	-15.8	-11.9
12	3.2	-16.0	-12.8
26/1	1.4	-19.3	-17.9
2	1.5	-16.7	-15.2

(年月)

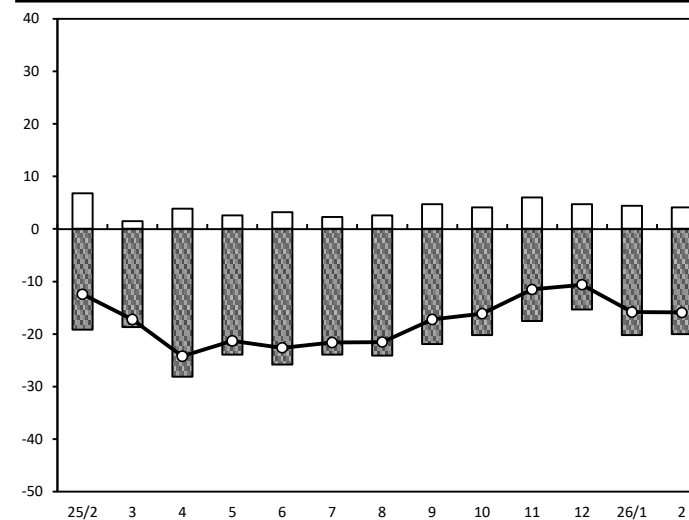
採算



年/月	増加	減少	DI
25/2	5.4	-20.3	-14.9
3	2.6	-21.2	-18.6
4	4.2	-28.1	-23.9
5	4.2	-26.8	-22.6
6	5.1	-27.4	-22.3
7	4.2	-25.8	-21.6
8	5.5	-25.0	-19.5
9	5.3	-23.9	-18.6
10	3.7	-20.5	-16.8
11	6.0	-20.3	-14.3
12	5.0	-20.3	-15.3
26/1	3.7	-21.2	-17.5
2	3.4	-19.3	-15.9

(年月)

業界の業況

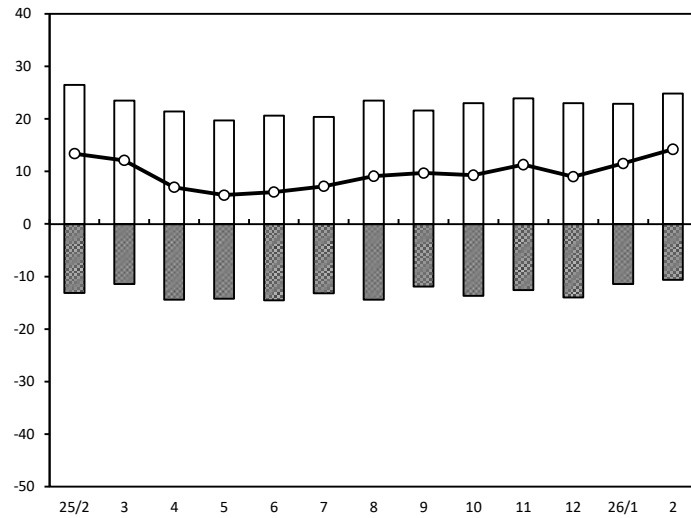


年/月	増加	減少	DI
25/2	6.8	-19.2	-12.4
3	1.5	-18.7	-17.2
4	3.9	-28.1	-24.2
5	2.6	-23.9	-21.3
6	3.2	-25.8	-22.6
7	2.3	-23.9	-21.6
8	2.6	-24.1	-21.5
9	4.7	-21.9	-17.2
10	4.1	-20.2	-16.1
11	6.0	-17.5	-11.5
12	4.7	-15.3	-10.6
26/1	4.4	-20.2	-15.8
2	4.1	-20.0	-15.9

(年月)

建設業(前年同月比)

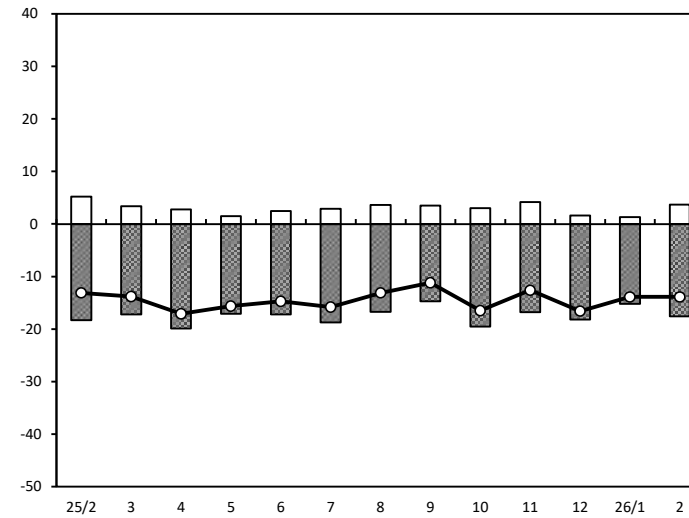
売上額



年/月	増加	減少	DI
25/2	26.5	-13.1	13.4
3	23.5	-11.4	12.1
4	21.4	-14.4	7.0
5	19.7	-14.2	5.5
6	20.6	-14.5	6.1
7	20.4	-13.2	7.2
8	23.5	-14.4	9.1
9	21.6	-11.9	9.7
10	23.0	-13.7	9.3
11	23.9	-12.6	11.3
12	23.0	-14.0	9.0
26/1	22.9	-11.4	11.5
2	24.8	-10.6	14.2

(年月)

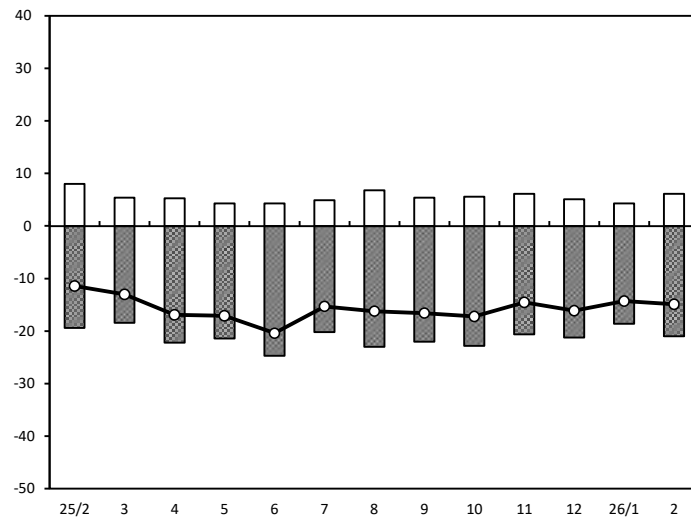
資金繰り



年/月	増加	減少	DI
25/2	5.2	-18.3	-13.1
3	3.4	-17.2	-13.8
4	2.8	-19.9	-17.1
5	1.5	-17.1	-15.6
6	2.5	-17.2	-14.7
7	2.9	-18.7	-15.8
8	3.6	-16.7	-13.1
9	3.5	-14.7	-11.2
10	3.0	-19.5	-16.5
11	4.2	-16.8	-12.6
12	1.6	-18.2	-16.6
26/1	1.3	-15.2	-13.9
2	3.7	-17.6	-13.9

(年月)

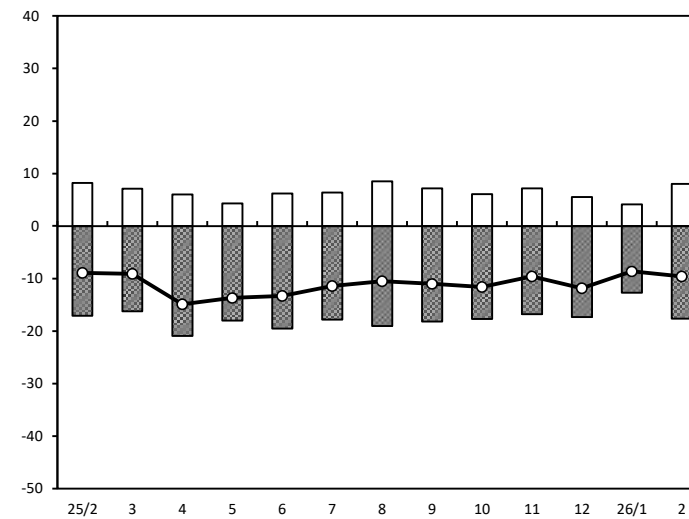
採算



年/月	増加	減少	DI
25/2	8.0	-19.4	-11.4
3	5.4	-18.4	-13.0
4	5.3	-22.2	-16.9
5	4.3	-21.4	-17.1
6	4.3	-24.7	-20.4
7	4.9	-20.2	-15.3
8	6.8	-23.0	-16.2
9	5.4	-22.0	-16.6
10	5.6	-22.8	-17.2
11	6.1	-20.6	-14.5
12	5.1	-21.2	-16.1
26/1	4.3	-18.6	-14.3
2	6.1	-21.0	-14.9

(年月)

業界の業況

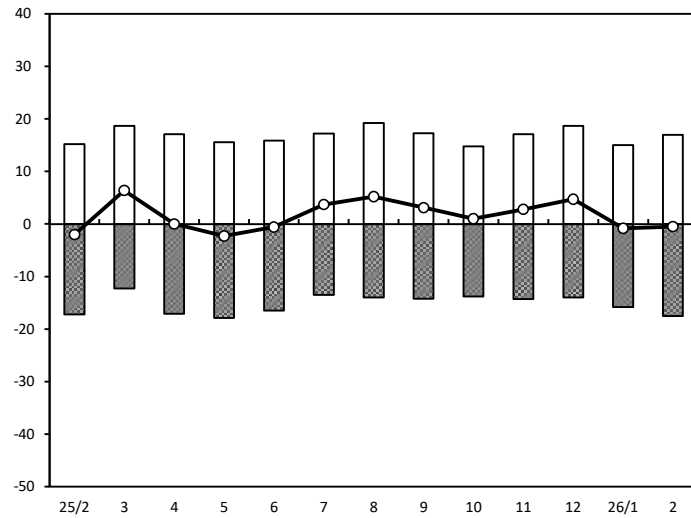


年/月	増加	減少	DI
25/2	8.2	-17.1	-8.9
3	7.1	-16.2	-9.1
4	6.0	-20.9	-14.9
5	4.3	-18.0	-13.7
6	6.2	-19.5	-13.3
7	6.4	-17.8	-11.4
8	8.5	-19.0	-10.5
9	7.2	-18.2	-11.0
10	6.1	-17.7	-11.6
11	7.2	-16.8	-9.6
12	5.5	-17.3	-11.8
26/1	4.1	-12.7	-8.6
2	8.0	-17.6	-9.6

(年月)

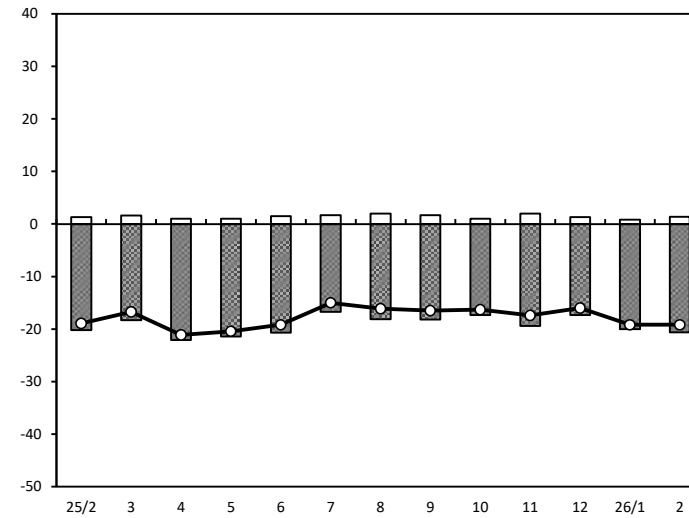
小 売 業(前年同月比)

売上額



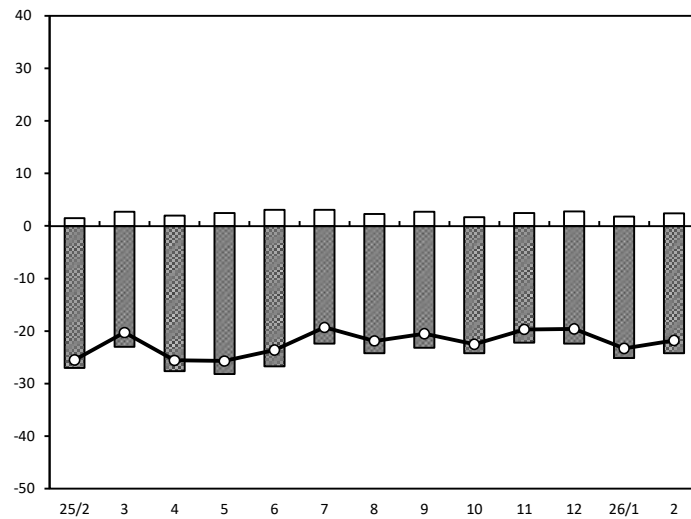
(年月)

資金繰り



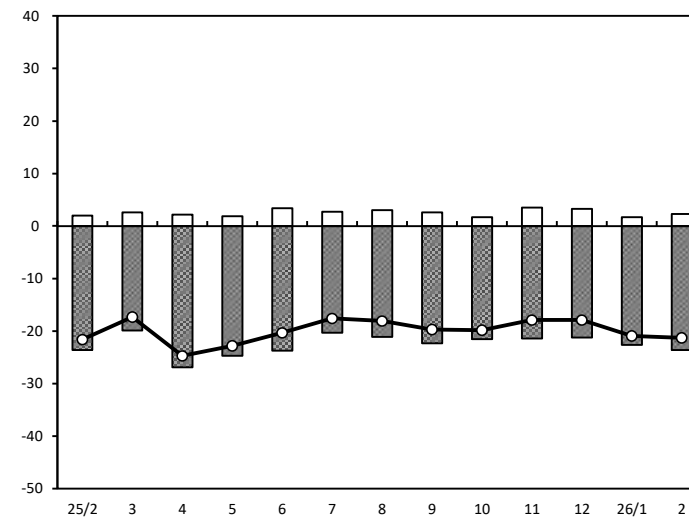
(年月)

採算



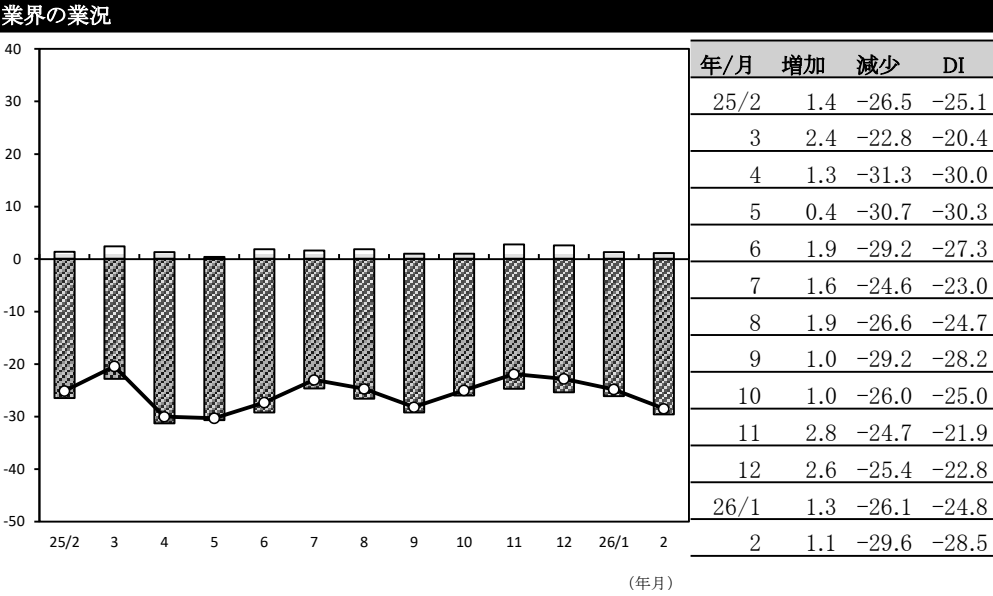
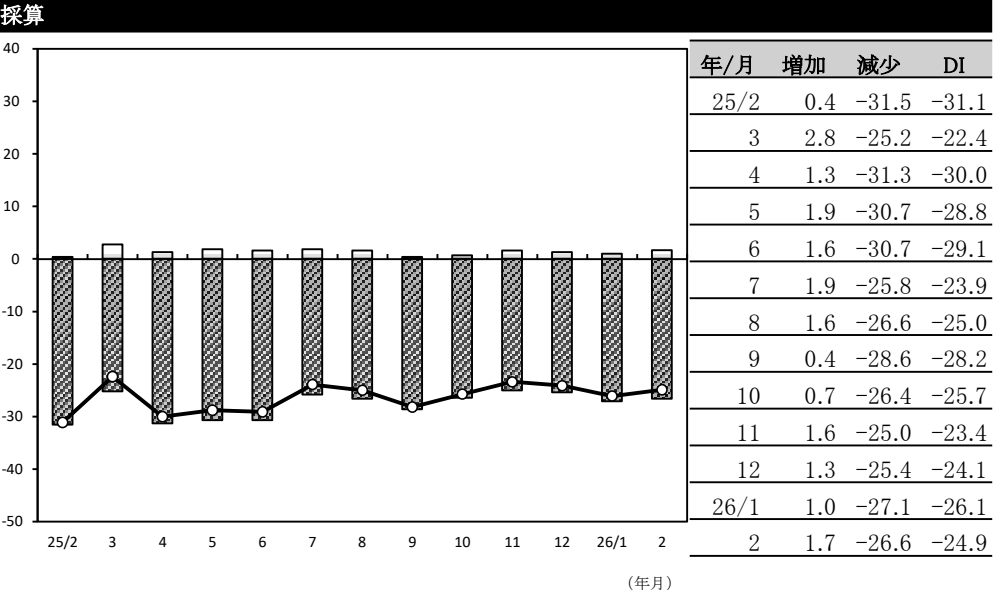
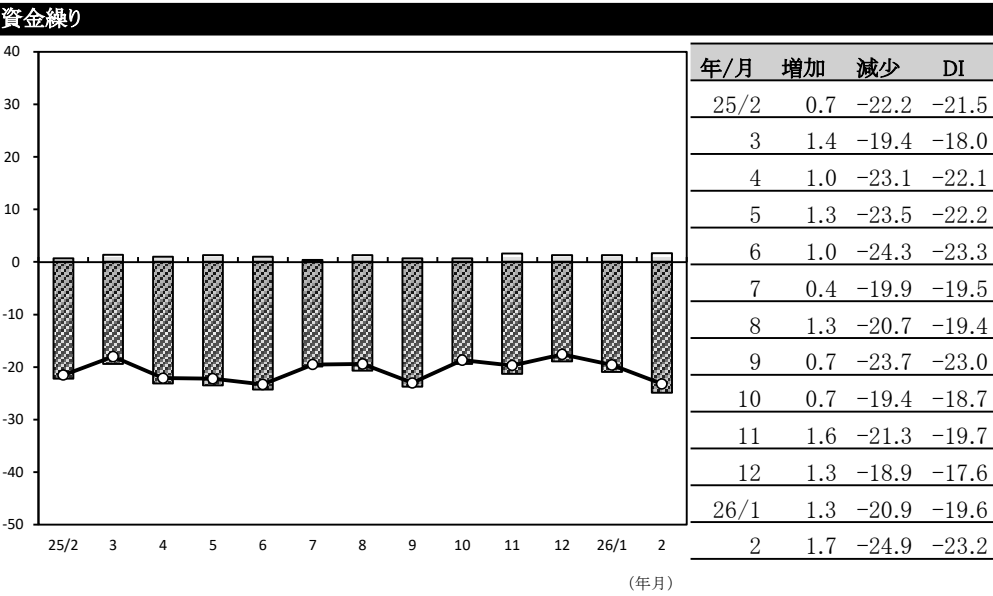
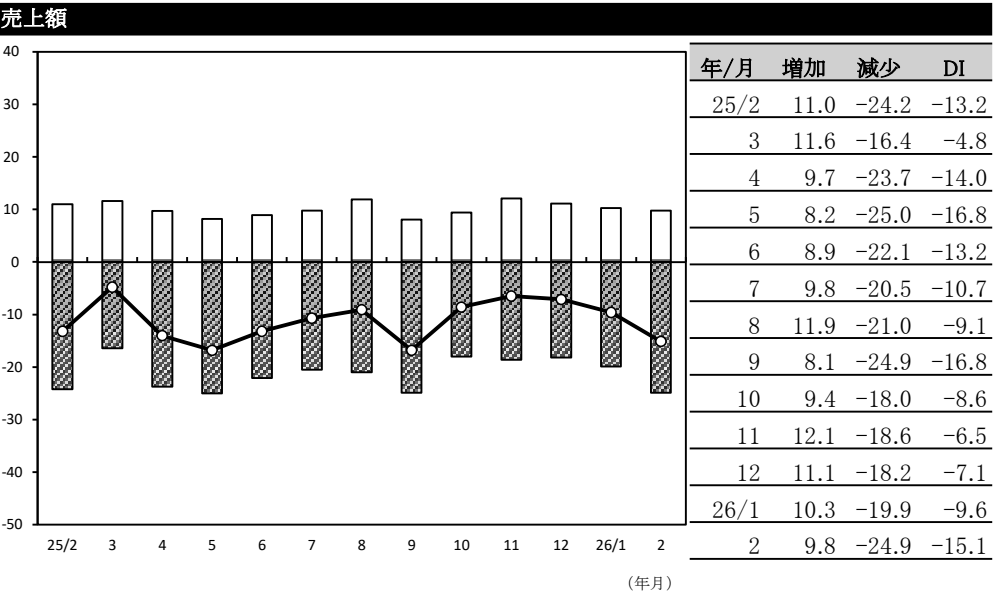
(年月)

業界の業況



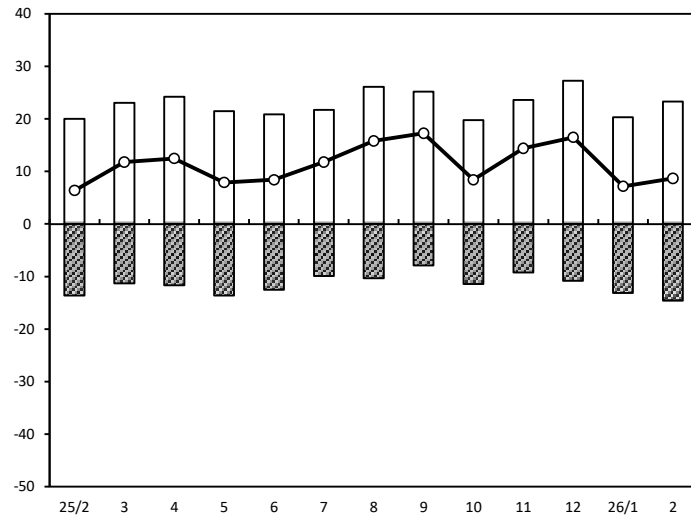
(年月)

小 売 業【衣料品】（前年同月比）



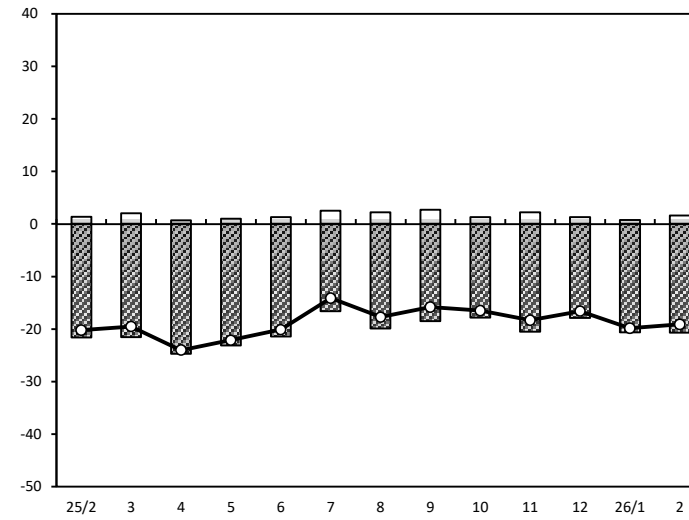
小 売 業【食料品】（前年同月比）

売上額



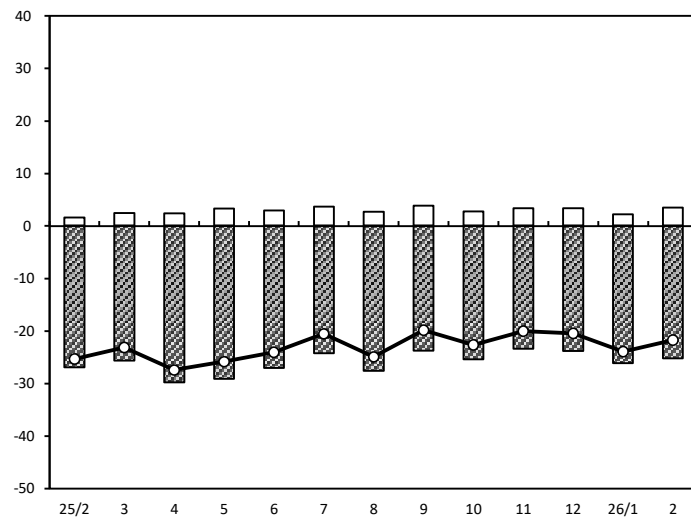
(年月)

資金繰り



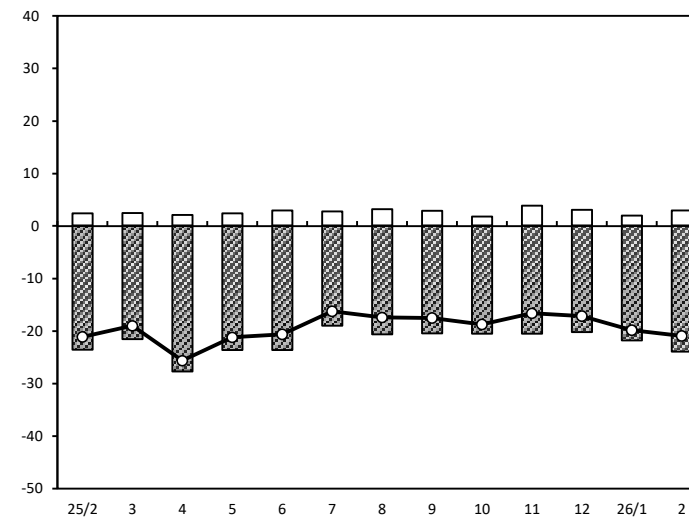
(年月)

採算



(年月)

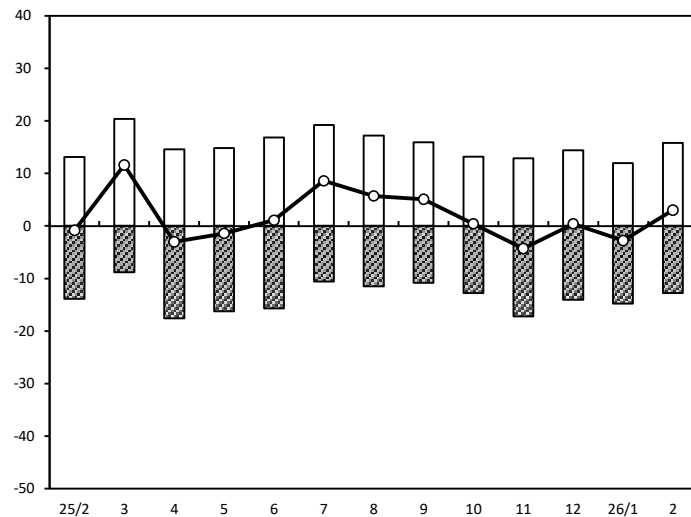
業界の業況



(年月)

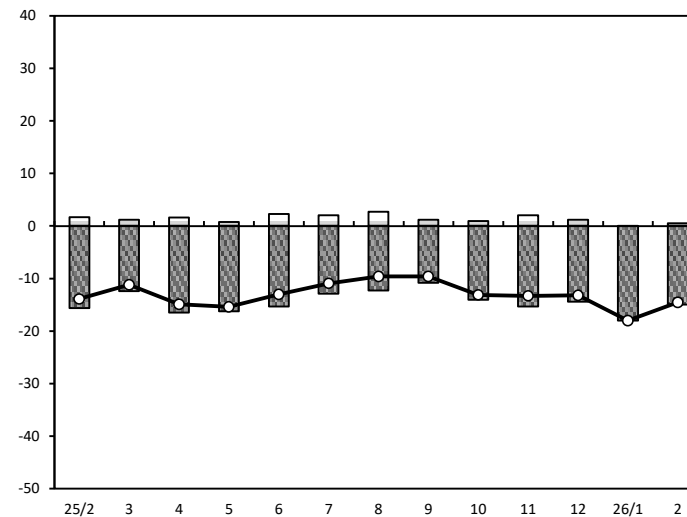
小 売 業【耐久消費財】（前年同月比）

売上額



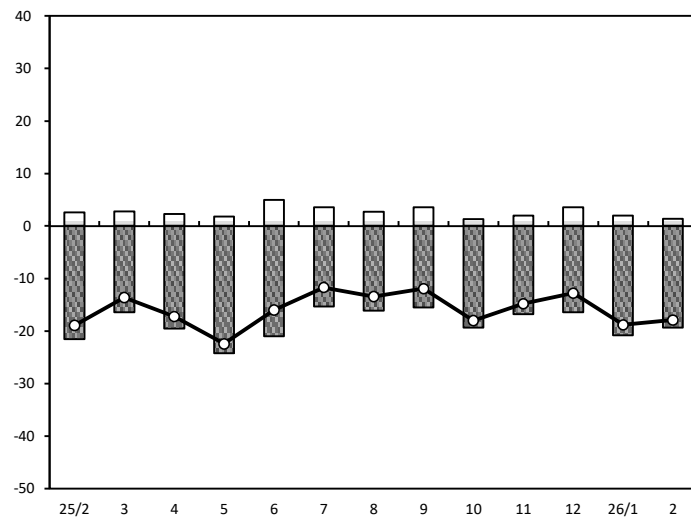
(年月)

資金繰り



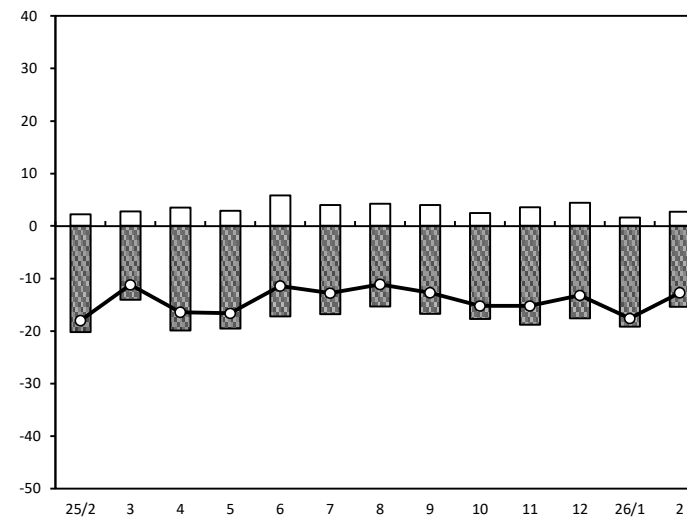
(年月)

採算



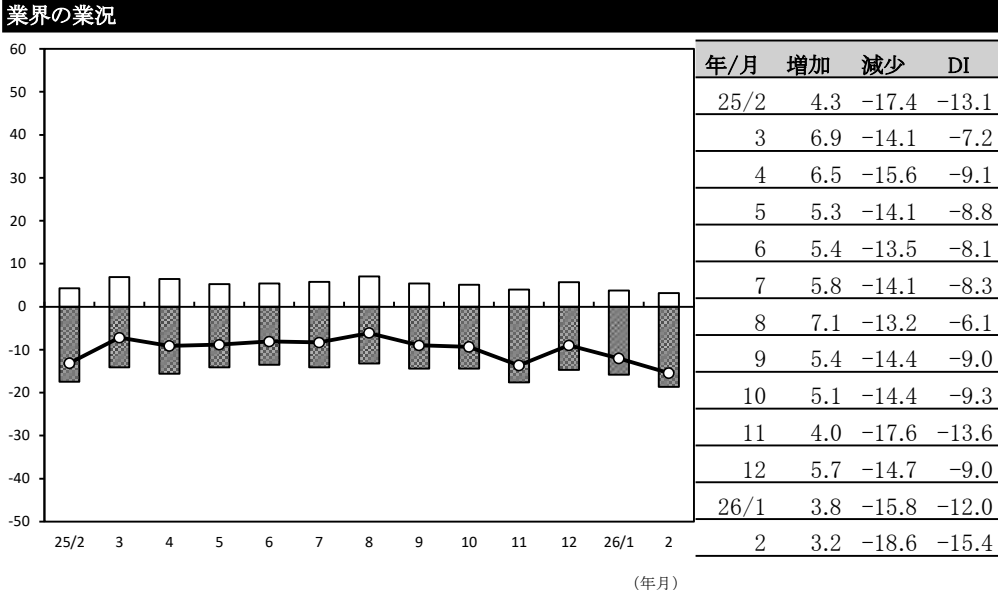
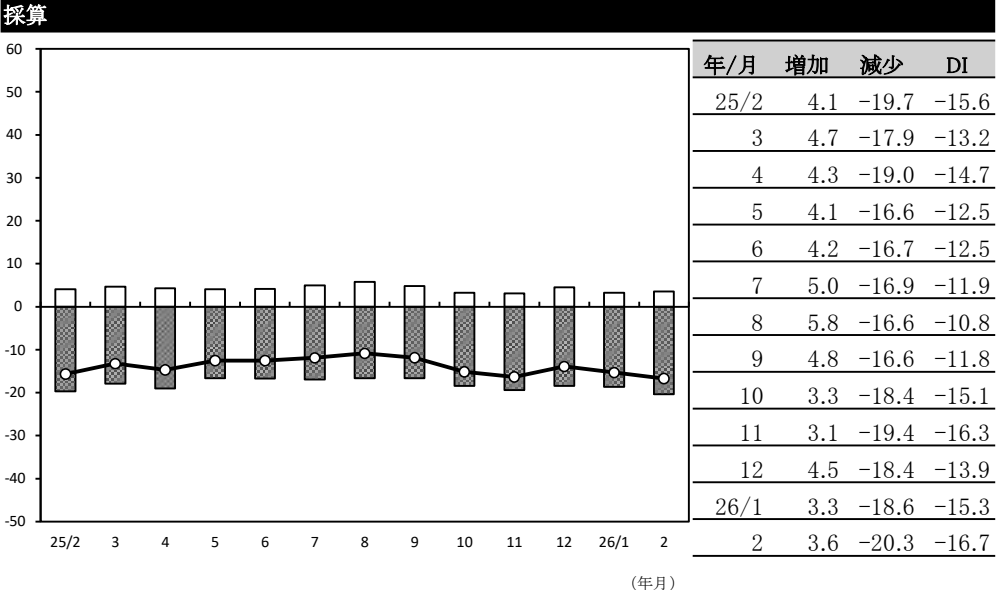
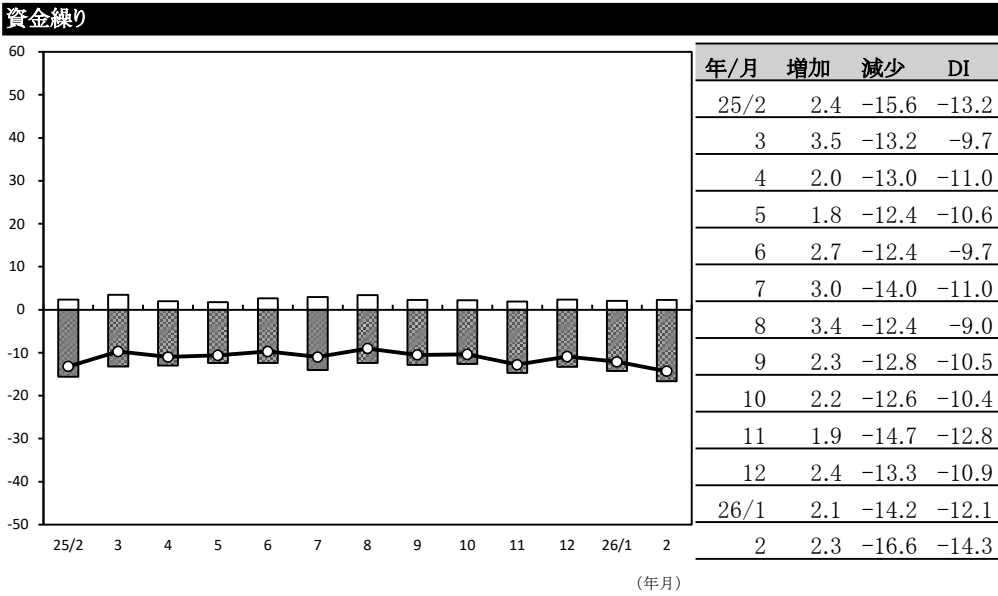
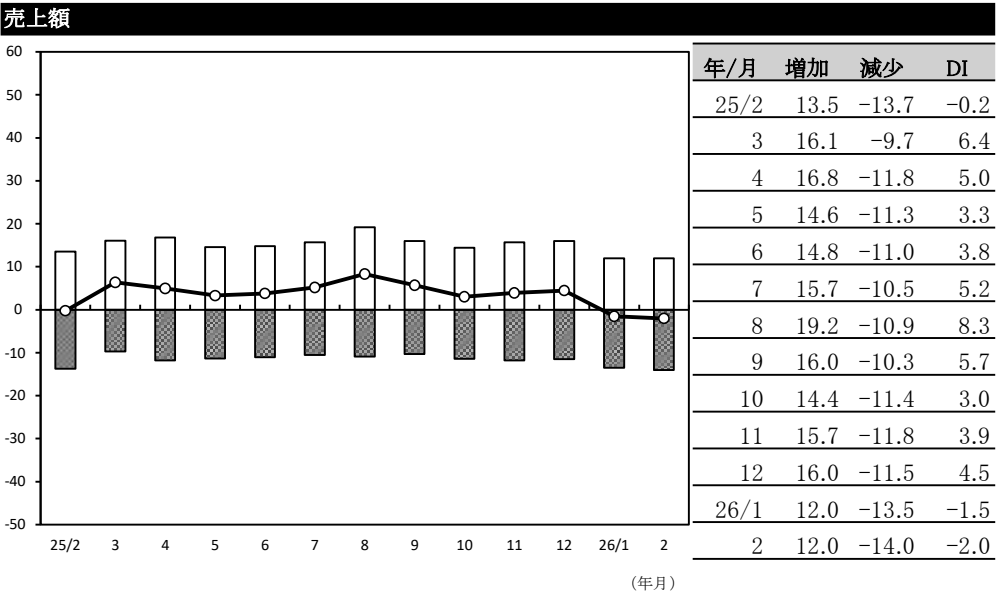
(年月)

業界の業況



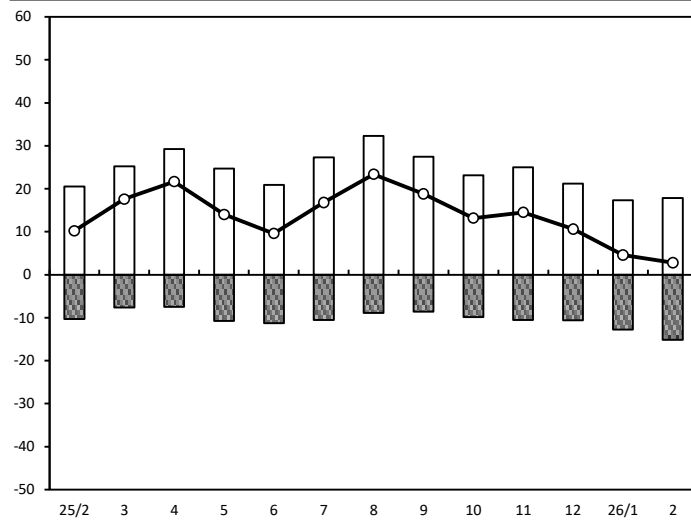
(年月)

サービス業(前年同月比)



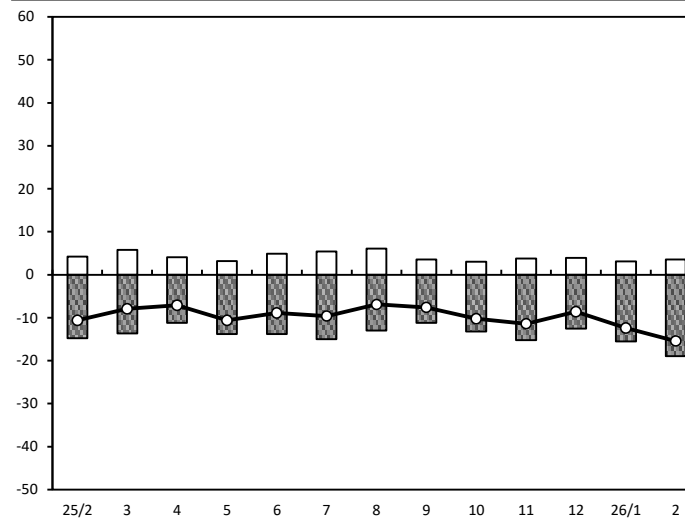
サービス業【旅館】（前年同月比）

売上額



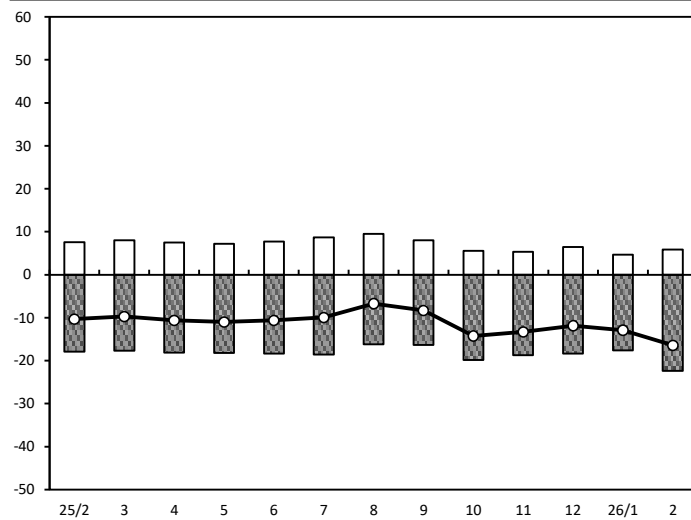
(年月)

資金繰り



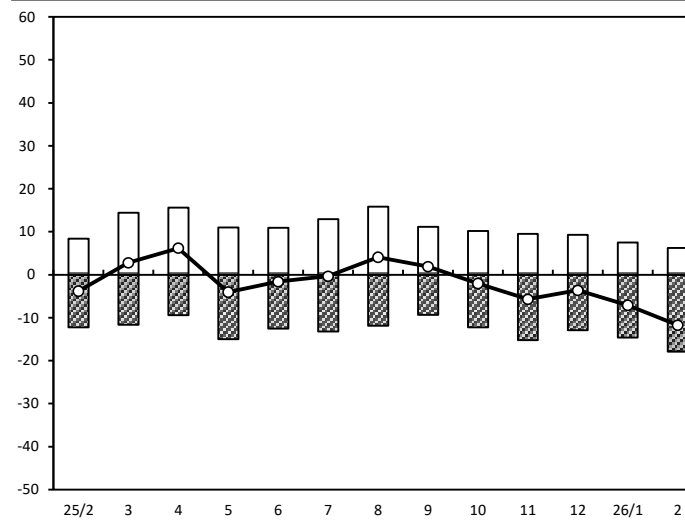
(年月)

採算



(年月)

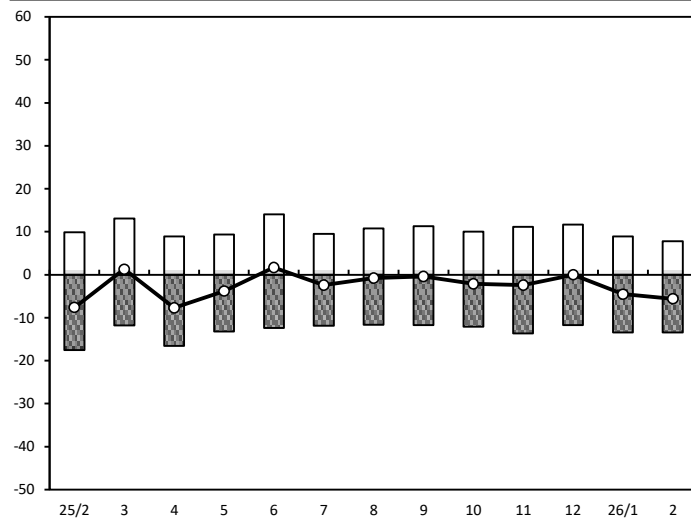
業界の業況



(年月)

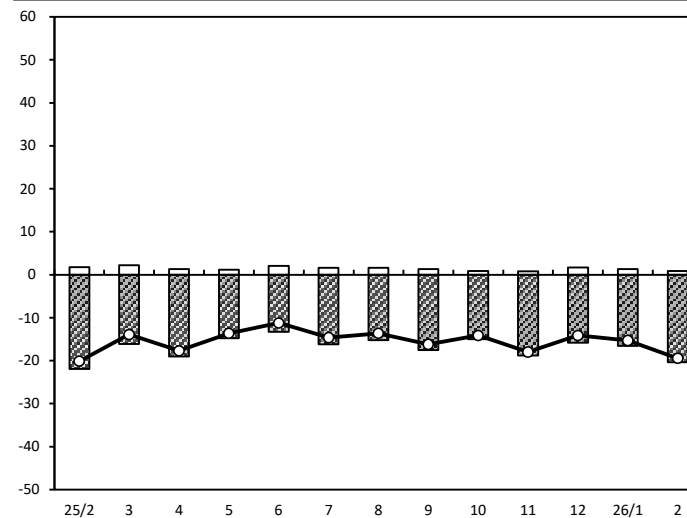
サービス業【クリーニング】（前年同月比）

売上額



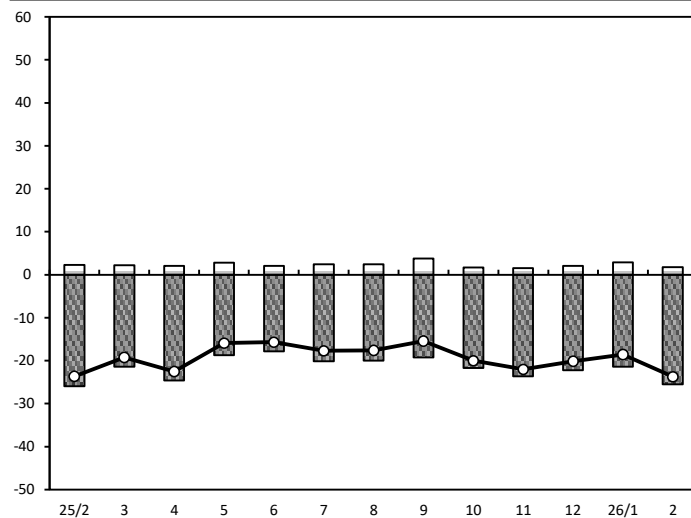
（年月）

資金繰り



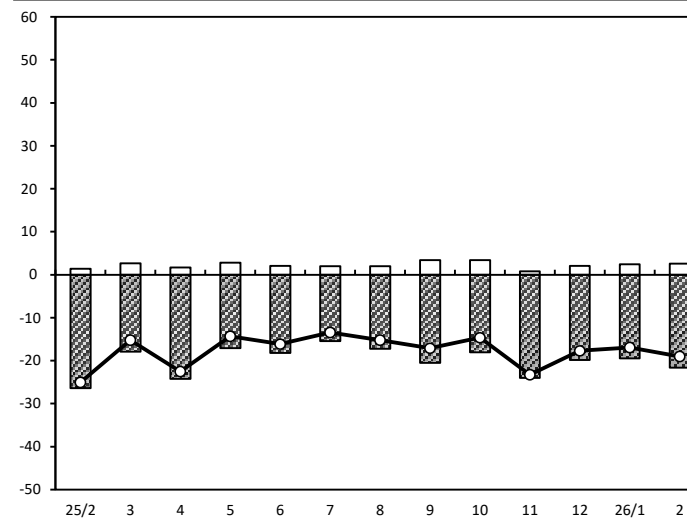
（年月）

採算



（年月）

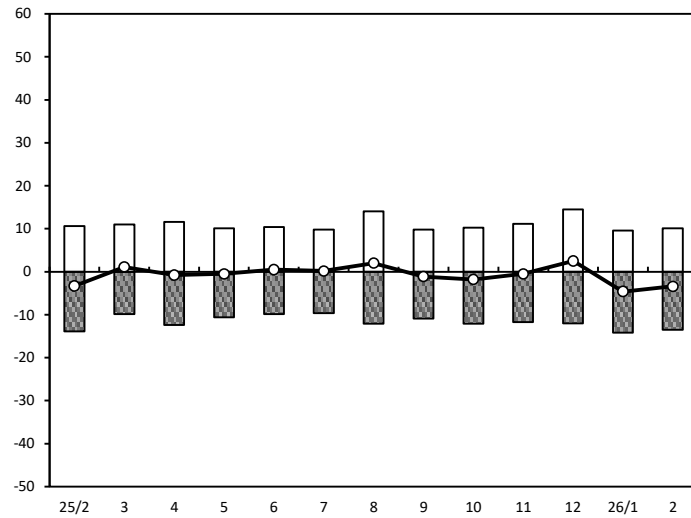
業界の業況



（年月）

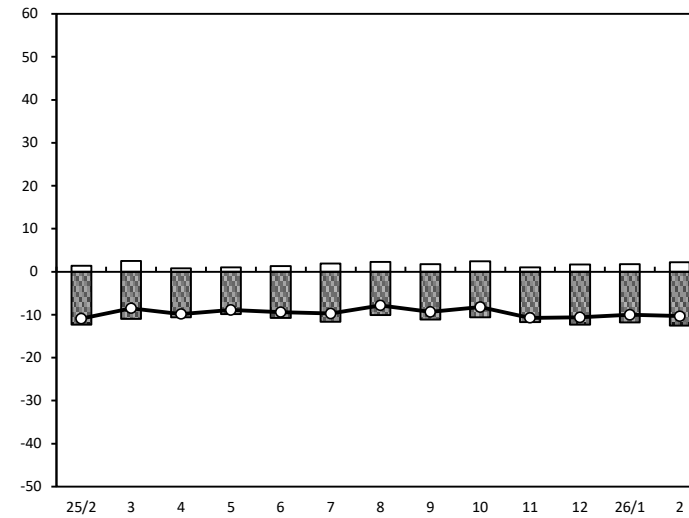
サービス業【理・美容】（前年同月比）

売上額



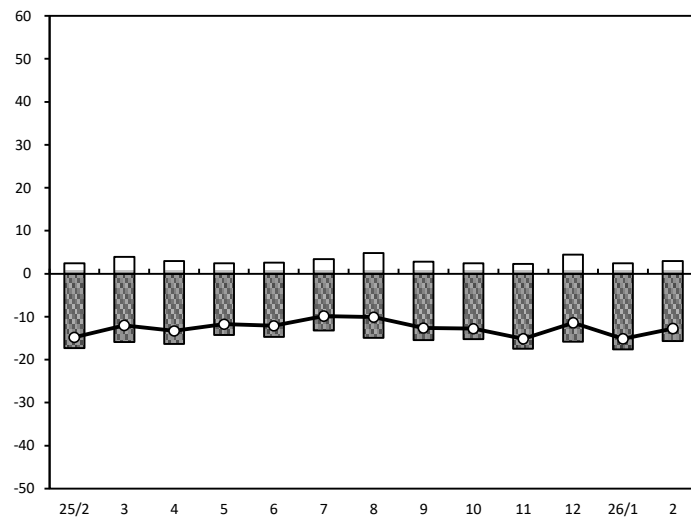
(年月)

資金繰り



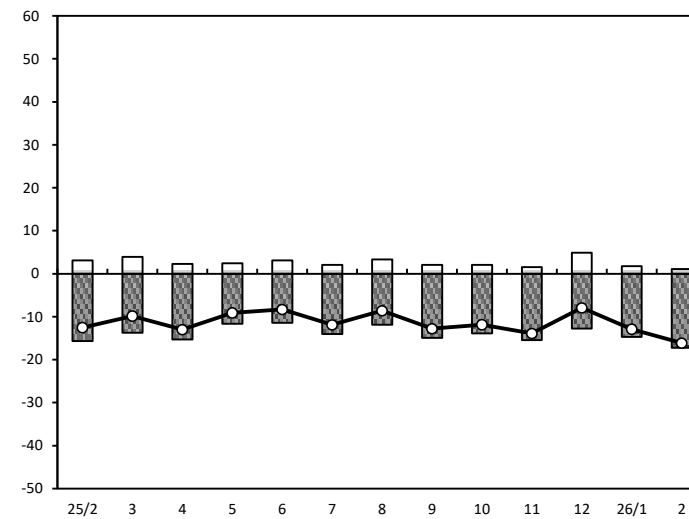
(年月)

採算



(年月)

業界の業況



(年月)

小規模企業景気動向調査(2月期)における商工会経営指導員の主なコメント

*コメントについては、経営指導員回答の原文を掲載。

1. 景気全般

<改善傾向を示すコメント>

例年以上の降雪により、雪に関連する業種は好況となった企業が多い印象。一方、食料品など価格変動が激しいものは苦慮されている。

(秋田県仙北市商工会 田沢湖支所)

今回の調査対象とした製造業・建設業・小売業については、景気は堅調に推移している。継続して商工会にて支援を行ってきたい。

(茨城県取手市商工会)

物価上昇に市場が慣れた感触がある。

(埼玉県北本市商工会)

<悪化傾向を示すコメント>

イラン情勢の悪化による石油価格高騰等に不安を感じている。今後小規模事業者の販管費等の増加につながると危惧している。

(青森県東通村商工会)

コスト増、価格転嫁への不安などは全体としての共通コメント化しつつある。他方、利用頻度の減少は見られるものの、全体としての需要自体が減少している印象はそれほどなく(同業の廃業等の影響もあると思うが)、ある種の淘汰の過渡期なのかもしれないと感じた。

(宮城県栗原南部商工会 瀬峰支所)

全てにおいて言えることだが、仕入単価の上昇については、継続した対策も必要であるが、今後は仕入単価分をカバーできるものに加えて、集客をどれだけできるかなど売上を確保できるものを事業者自体も考えていかなければいけないのではないかと懸念する。

(福島県保原町商工会)

業種を問わず小規模事業者、また従業員を雇用する余裕のない家族経営の事業主などの経営状況の悪化が進んでおり、後継者もいないため今後廃業などが増えていくことが考えられる。人材だけでなく、消費についても近隣神栖市や成田市への流出が懸念される。

(千葉県香取市商工会)

市内小規模事業者は継続した物価高騰により、相変わらず厳しい経営・財務状態が続いている。市内周辺には大型店や量販店も存在し、市内商店・個店で買い物・サービスの提供を受ける消費者が減少し、個人商店・小売店等を継続・保持することも大変困難である。国や東京都における助成・補助事業の活用にしても賃金引上げが伴わなければならないため、積極的な行動も起こせない。

(東京都清瀬商工会)

2月は例年需要減退期ではあるものの、当地は震災により「一時的減少」ではなく「基礎需要の縮小」が進行している状況であり、単価維持は可能でも客数減少が問題となっている。地域全体の景気を底上げするためには、春以降、観光を中心に、いかにして地域外からの誘客増を図るかが最大の課題である。

(石川県富来商工会)

全体としては、業種間でばらつきはあるものの、足元の景況感は横ばい圏内で推移しているとの見方が多い。一方で、アメリカによるイランへの攻撃を受けた中東情勢の緊迫化に伴い、原油価格の上昇による燃料費・物流費・原材料費の更なる負担増を懸念する声が広がっている。今後は、コスト上昇の長期化が地域事業者の収益や設備投資意欲に与える影響に注意が必要とみられる。

(岐阜県大垣市商工会)

全体として、一部の専門工事業や機械金属製造業で好調な動きが見られるものの、多くの業種で原材料費、資材費、光熱費の高騰が続いており、利益を大きく圧迫しています。特に建設業における公共工事の減少や、飲食業における原価率の上昇が顕著であり、適切な価格転嫁や経費削減、新規集客に向けたSNS活用や補助金利用などの経営努力が強く求められている状況です。

(京都府福知山市商工会)

全体として、景況はおおむね横ばいからやや厳しいといえる。食品関連製造や美容業は、原材料や仕入れ価格が上がっているものの、売上や高い利益率に支えられ、利益はおおむね前年並みを維持している。一方、機械金属製造は農業機械の不振と仕入単価の上昇で、非常に厳しい。建設業や小売業も売上は堅調な事業所が多いが、原材料費や人件費、仕入価格の上昇により、収益面では苦しい事業所が目立つ。

(岡山県岡山北商工会)

米国によるイランへの軍事攻撃により地政学的リスクがあり、日本への影響が最小限になるか懸念している。製造業は上流からの仕事の引き締めなどトップダウンで行われるので戦々恐々としている。

(広島県黒瀬商工会)

国や自治体等による物価高騰に係る給付による消費の拡大が期待できるが、全体的に大部分は大型店に流れていくと思われる事と、その効果も一時的なものであることが否めない。

(福岡県岡垣町商工会)

小売り・サービスや飲食・宿泊など一部の業種ではインバウンド需要による好況感は続いているが、仕事があっても人手が足りず受注機会を逃すなどの事例もある。また離島という閉鎖的な商圈のため、人口の減少による消費縮小の影響を直接受ける事業所については、物価高騰の影響もあり価格転嫁や省人化による利益の確保に苦慮している事業所もある。

(長崎県対馬市商工会)

2. 製造業

<改善傾向を示すコメント>

繊維工業関連の事業者は、業界の業況はあまり良くないが、自社については季節の変動は有っても悪くは無いとのこと。機械金属製造業関係の事業者は、現在受注は増加傾向に有るが海外の景況等の外部要因次第で変動もあり得るとのこと。

(栃木県那珂川町商工会)

下請法改正の影響で取引先との価格交渉も可能となり、手形が無くなって資金繰りが楽になった。

(埼玉県北本市商工会)

前年度は工事で営業できていないため、今年度の方が売上が伸びた。仕入もやや上がっているが、売上がとてもいいので採算も良かった。

(岐阜県川辺町商工会)

半導体や非鉄金属の需要の高まりが継続している。

(広島県黒瀬商工会)

食品製造業。新商品も好調、補助金を活用して新規設備導入をし、OEMに注力していく。

(福岡県古賀市商工会)

<悪化傾向を示すコメント>

水産加工業について原材料の仕入高が高騰している状態が続いており、今月始まる毛ガニ漁についても、漁獲量の減少及び漁獲高の高騰が懸念されている状況である。

(北海道枝幸町商工会)

エネルギー価格や仕入価格は依然上昇傾向にあり、加えて人件費の高騰も重なり、採算及び資金繰りが悪化している。

(群馬県富士見商工会)

人手不足がより深刻化しており、経験者採用にて求人を行っても一切の反応が得られない状況が続いている。新人教育を行う余裕も少なく、生産性向上の取り組み等を行うことが求められている。

(東京都福生市商工会)

原材料価格やエネルギー費の高止まりにより製造コストの負担が続いている。受注量はおおむね前年並み、またはやや増加傾向がみられる。人手不足や物流費の上昇が生産効率に影響しており、利益面では依然として厳しさが残る。

(山梨県昭和町商工会)

鉄鋼製品製造関連の事業者において、米国の関税政策の影響が直接的・間接的の両面で仕入れ価格の上昇につながっている。

(愛知県飛島村商工会)

甲賀市内の機械金属製造業のうち、ティグ溶接を中心とする事業者では、産業機械部品やステンレス加工分野を中心に一定の受注は維持しているものの、鋼材価格や電力料金の高止まりにより収益環境は厳しい状況が続いている。ティグ溶接は高い技術力を要する一方、作業効率が限定的で人手依存度も高く、熟練技能者の確保・育成が課題となっている。加えて、受注ロットの小口化や短納期化が進み、現場負担は増加傾向にある。

(滋賀県甲賀市商工会)

前年同月と比較し、機械金属関連では大手取引先の稼働状況の影響を受け、年間を通じて売上が伸び悩む事業所が見られる。繊維関連では売上が前年を明確に下回るケースが報告されており、経費増や税負担が採算を強く圧迫している。食料品関連においては、オンライン販売の活用等で活路を見出す動きがあるものの、全体として原材料費の高騰分を吸収しきれていない。総じて、売上維持に苦心しており利益率の低下が課題となっている。

(兵庫県丹波市商工会)

食料品: 4月の値上げに向けた顧客への周知と理解が進んでおり、賃上げに向けた前向きなサイクルが見られます。繊維: 安価な量販店との競合が続いており、前年比で受注が悪化するなど厳しい状況です。機械・金属: 鉄鋼等の原材料高騰が直接収益を圧迫。賃上げの必要性は認識しつつも、その原資確保が高いハードルとなっています。

(鳥取県米子日吉津商工会)

織物業では絹糸製造者の減少などを背景に、3月以降原材料の仕入価格が約3倍に上昇する見込み。除雪関連事業を行っている事業者は、降雪の影響により売上増加。

(島根県石見商工会)

海産物加工業者からのヒアリングで有明海の高産物(カニ・コハダ・芝エビ)が歴史的な不漁により仕入単価が2~3倍跳ね上がっているとの報告が上がっている。

(佐賀県太良町商工会)

原材料価格やエネルギー価格の高騰が続く中、一部では販売価格への転嫁が進んでいるものの、十分とは言えない状況にある。受注は減少傾向にあり、地域全体の需要の弱さも相まって、先行きに対する慎重な見方が広がっている。

(長崎県松浦市福鷹商工会)

菓子製造業は、原料価格の高騰がつづき販売単価もあがっているが十分な転嫁もできていないが、販売価格高騰による消費抑制がみられ売上も減少傾向となっている。

(鹿児島県薩摩川内市商工会)

3. 建設業

<改善傾向を示すコメント>

官民からの除排雪業務を受託している業者は、雪が多い分、売上が上がった。雪害も多く建物の修繕依頼も多いが、雪が多い状態では、修繕も困難なため雪が少なくなってきたら修繕できるため、売上は上がる予定。

(青森県今別町商工会)

都市部に関してアパートやマンションなどの大型工事が増えてきた。

(宮城県東松島市商工会)

新築物件も徐々に立ち始めたが、親が一部支出協力できる二世帯や安定所得のある公務員などが多い様子。アスベスト等の対策に伴う解体・リフォームの受注も昨年法改正があり低調だったが今年度は受注戻り基調。

(山形県南陽市商工会)

建設業関連の事業者は、2年間忙しいのが続いている。修繕中心のリフォームから新築が多くなってきていると感じている。

(石川県能登鹿北商工会 田鶴浜支所)

改築・修繕需要の増加により前年比より好調。

(静岡県東伊豆町商工会)

墓の建立を行う建設関連業者は、近隣(一部過疎地域)と比べ都市部の方が単価は大幅に高いため、近隣からの依頼は全て断っており、好調である

(佐賀県唐津上場商工会 経営支援センター)

<悪化傾向を示すコメント>

昨年同月期は、記録的な大雪の影響により除雪業務も稼働していたが、今期はそれ程の降雪量も無く、本業の稼働が出来ている状況にある。しかし、民間受注は依然として停滞しており、人件費の増加もあってなかなか利益確保に苦慮している企業が多く見受けられる。職人の人手不足も相変わらずであり、業界の大きな課題である。

(福島県会津美里町商工会)

能登地震の復旧・復興に伴う工事の受注が続いており、建築・土木分野の業況は上向いている。一方で、建築資材価格の高騰の影響により、大工工事業では受注が伸び悩んでおり、業況は二極化している。

(富山県射水市商工会)

公共事業(除雪)等が例年に比べて減少しているため、売上としては減少傾向であった。資材について値上がり著しく、物価高騰の影響を受けている。

(岐阜県高山西商工会)

甲賀市内の電気工事業では、住宅設備関連を中心に一定の受注は確保されている。特にエアコン設置工事は、通信販売会社経由の案件を中心に需要があり、一人親方として新規創業する動きも見られるなど、業務機会は一定程度存在している。一方で、資材価格や燃料費の高止まりに加え、人件費の上昇が収益を圧迫している。元請依存の取引形態では単価交渉が難しく、受注はあるものの利益確保が課題となるケースも多い。また、繁忙期と閑散期の差が大きく、年間を通じた安定受注が求められている。

(滋賀県甲賀市商工会)

住宅の改修工事などの需要が堅調であり、前年と比較して売上が大幅に増加している事業所や、切れ目なく受注を確保している事業所が多く見受けられる。一方で、資材価格の高騰は継続しており、法改正に伴う許認可手続きの遅延から工期が延び、手元の資金繰りに影響が出ているケースもある。仕事量は豊富で売上は立っているものの、コスト増や事務負担増への対応に追われており、採算面での手放しの好転には至っていない。

(兵庫県丹波市商工会)

売上はやや増加しているが、それ以上に仕入れ高が上がっており、採算が取れていない事業所の声が目立つ。

(奈良県田原本町商工会)

資材の高騰や公共工事の減少による影響が大きく、低迷している。

(和歌山県上富田町商工会)

降雪による除雪需要で売上増となったものの、公共工事の発注量が少なく本業での売上減少となっている事業所あり。人も思うように集まらず人手不足感も否めない。

(鳥取県鳥取市西商工会)

現場の稼働状況は概ね良好で、売上についても計画どおり順調に推移している。一方で、資材価格の高騰は依然として続いており、収益面への影響が懸念される状況にある。また、業界全体で人手不足が深刻化しており、今後は受注対応力の低下や受注機会の逸失につながる可能性もあるため、人員確保や体制強化への対応が課題となっている。

(長崎県諫早市商工会)

半導体関連工事や周辺インフラ需要の継続により、建設需要は底堅く推移している。熊本県内の公共工事請負金額も前年を上回っており受注環境は悪くないが、資材価格は高止まりし、人手確保や外注費上昇が採算を圧迫している。売上は確保しやすい一方、利益面では慎重な見方が多い。

(熊本県大津町商工会)

建築資材の高騰、人件費の上昇、職人不足。新築工事の減少などで悪影響が多い。

(大分県中津市しもげ商工会)

4. 小売業

<改善傾向を示すコメント>

衣料品でも着物などは業界全体として着る人、着る場面が減っている。食料品は順調。耐久消費財については、広告の影響もあり、引っ越しなどにより売れ行きは好調。ただし、仕入れ値は上がっている。

(石川県美川商工会)

花粉のシーズンに入ってきたことで空気清浄機関連の販売が好調(家電)

(静岡県森町商工会)

食料品小売業: 寄島牡蠣の地方発送ができたので売上が増加した。

(岡山県浅口商工会)

前期に比べ軒並み好調だが、今後の値上がりに対し懸念が残る。

(山口県山口県央商工会 秋穂支所)

家具製造業では、卸売中心から自社ブランドの小売への業態変更により売上は同じでも利益の増加につながっている。

(香川県高松市中央商工会)

資金繰り対応のためマル経融資を活用し、すごく助かった。

(福岡県久留米南部商工会)

<悪化傾向を示すコメント>

地方の小売業は、小売り大手に押され厳しい状況が続いている

(岩手県岩手町商工会)

衣料品小売業関連の事業者は仕入品目を絞ったことにより売上は減少したが、資金効率と利益が改善したとのこと。食料品小売業関連の事業者は客単価の減少と仕入価格高騰に対する相当の値上げが出来ていないとのこと。

(栃木県那珂川町商工会)

物価上昇等による家計負担の増加などもあり依然として節約志向が強く消費は伸び悩んでいる。特に衣類・家具といった準必需品は影響を受けやすく、衣料品小売店では学生服販売を行う店舗の割合が高いが、少子化により対象となる学生が減少傾向にあり顧客獲得競争は激しくなっている。

(群馬県みなかみ町商工会)

仕入れ単価が上昇している。いかに、付加価値をつけて売るかがカギであると思われる。

(埼玉県越生町商工会)

食料品小売業者は、大手スーパー等の売上が減少している影響もあり、販売に苦戦している状況。

(神奈川県小田原市橋商工会)

越前海岸沿いの鮮魚店の話では、悪天候により越前ガニが捕れない時期が続いたため、売上が減少したとのことだった。

(福井県南越前町商工会)

物価上昇の影響により生活必需品を中心に売上はやや増加傾向が見られる。消費者の節約志向は依然として強く、衣料品や耐久消費財などでは買い控えの動きもみられる。仕入価格や光熱費の上昇により販売価格の引き上げを行う事業者も多いが、価格転嫁が十分に進まないケースもあり、利益面では厳しさが残る。

(山梨県昭和町商工会)

調査した事業所は一般消費者(高齢者)に対して婦人服を中心に売っている。顧客の高齢化やネットショッピングの普及により売上が年々減少傾向にある。また、事業者自身も高齢になっているため次年度を目途に廃業予定とのこと。

(岐阜県古川町商工会)

一部の小売業では、仕入業者が上代を設定しており、仕入が上がりても勝手な販売をできない構造となっており、上代設定が事業継続の弊害となっている。

(京都府木津川市商工会)

衣料品: 中学校制服の販売時期になり、売上高自体は前月より増加した。しかし、少子化による生徒数の減少に加え、価格が自社で決められないため、利益としては少ない。食料品: 売上は横ばい傾向。物価高騰や人件費上昇が続いており、利益確保を踏まえた適正な価格転嫁が課題である。耐久消費財: 物価高騰により販売価格が上がっていることで、消費量は鈍化傾向。人件費上昇が懸念材料となっている。

(鳥取県琴浦町商工会)

衣料品、食料品、耐久消費財ともに少子高齢化の影響は大きい。過疎地域に指定されてる地域であり、地域の衰退は顕著である。

(島根県まつえ北商工会 八束支所)

中山間地域の小売業者がおかれている状況は年々厳しさを増している。特に食品関係は顧客が減少しており、店舗の維持ができない状況に陥っている。

(岡山県阿哲商工会)

米の小売を行っている事業所は仕入れ価格が高騰し資金繰りが困難となっている。また在庫も多く抱え安くも販売できない状態である。

(愛媛県西予市商工会)

消費者の節約志向も続いており値上げ分の売上増加はあるものの、購買点数は増加していない状況。行政による物価高騰対策商品券事業などで一部消費喚起されている部分はある。

(鹿児島県知名町商工会)

5. サービス業

<改善傾向を示すコメント>

例年以上の降雪によりスキー場をはじめ観光各所への県内外の他、国外からの観光客の往来が多かった。なお、中国からの観光客減少の影響はわずかであり、その分台湾をはじめとしたアジア系や欧米各国からの訪問がサービス業全般を好況へと押し上げている印象。

(秋田県仙北市商工会 田沢湖支所)

旅館業については、ビジネス利用や観光利用等により好調であり稼働率も75%と好調である。

(埼玉県東松山市商工会)

当地は冬はスキー客で賑わう観光地で、年々インバウンド客が増加している。今月は比較的降雪が少なかったものの前月からの積雪が充分にあり、昨年同期よりさらに増加している。今年は少雪だったアメリカからの客が増加したほか、東南アジアや台湾等も増加。約半数を占めるオーストラリアからの客も好調。一方でリフト券料金がさらに上がって日本人客が減少しており、日本人客中心の宿泊施設は非常に苦戦している。理美容業は客層が地元の固定客がほとんどであり、売上の多くが技術料であるため、売上、採算とも概ね前年並みである。

(新潟県妙高市商工会)

開業4年目になるが、経営も軌道に乗ってきた。ホットペッパーでのみ予約を受け付けており、新規客限定クーポンも出していない状態であるが、顧客数は伸びている。ただ業務が代表一人に属人化しており、この課題を解決して従業員や遊休スペースなどのスラックを活用していくことが今後の課題。

(静岡県吉田町商工会)

<悪化傾向を示すコメント>

12月～2月、宿泊施設が閑散期となり、売上ダウン。昨年はスキーシーズンにより外国人等の予約もあったものの、今年は団体中国人客が減少したため、近場での宿泊が可能になり、アクセスに不利な当市の宿泊客は減少したと思われる。

(山形県南陽市商工会)

サービス業全般的には、特段大きな動きも無く、例年通りの月となった。その為、雇用している事業所にとっては、売上が少ない分、賃上げの影響により資金繰りが厳しい事業所も少なからず見受けられるようである。基本的には、飲食料品や日用品など、生活を営む上で必要最小限の消費に留まる消費動向が一般的となっており、サービス関連業種にかけられるお金も少ないように見受けられる。

(福島県会津美里町商工会)

美容業界も他業界と同様に、高齢化による廃業が増加していると感じている。親子間で事業を承継する話は伺ったことはあるが、従業員など第三者へ事業承継したといった話は聞かない。

(神奈川県南足柄市商工会)

飲食業：昨年と変わらず売上はある。仕入単価が上がっているため、安く仕入れられる店・ネット等を利用している。洗濯業：需要の減少、高齢化により老舗店舗が廃業。理美容業：前年比ではあまり変化はなかったが、現在の在庫が終了次第価格改定を考えている。業界自体は物価高等により下降傾向。怪我により売上減少。事業者全体が高齢化している。顧客の高齢化等により来客数が減り、売上が減少している。

(静岡県天竜商工会)

毎年この時期(1～2月)は閑散期となっており、今年も前年度と同程度の稼働となりました。例年は春節の次に稼働が上昇する傾向がありますが、今年は全国的に中国からの団体が減少している影響もあり、例年ほどの稼働の伸びが見られませんでした。

(滋賀県野洲市商工会)

旅館業：宿泊料金の値上げや料金体系の刷新により売上向上を図るなど、攻めの経営が見られます。しかし、光熱費の高騰や過去の借入返済が重なり、採算・資金繰りは依然として厳しい状況にあります。洗濯業・理美容業：地域人口の減少が客数減少に直結しており、非常に強い危機感があります。洗濯業では「ネット販売への注力」というデジタルシフトで打開を図っていますが、理美容業では「新規客の見込みが立たない」という閉塞感が漂っています。

(鳥取県米子日吉津商工会)

資金繰りに苦慮しているとのコメントが多く聞かれた。同じようなスタイルでの営業活動に限界を感じており、新しい企画などを考える必要がある。■旅館：隣町にビジネスホテルが開業することとなり、大きな影響を受けられている。経営を続けていくことに対し不安しかない。

(岡山県瀬戸内市商工会)

洗濯業では、業界全体で廃業が続く厳しい環境下にあるものの、新規取引先の獲得に成功し増員を予定する好調な事例も見られます。一方で理・美容業では、経営者の高齢化に伴う組合脱退や廃業が増加している反面、新規出店が少なく、業界の活力が低下しています。個別企業の営業努力による明暗と、構造的な担い手不足という課題が混在しています。

(福岡県みやま市商工会)

業者の宿泊予約が7割程度ある。昨年から昼ランチと弁当販売をやめて、人件費も減少し経費節減につながっている。しかし、物価高騰の影響等により利益の確保は難しい。

(長崎県対馬市商工会)

・原油価格の上昇により仕入価格が約5%上昇し採算は厳しい。イラク情勢によるさらなる高騰も懸念される(クリーニング業)。・売上・客数ともに概ね安定しているものの、業界全体としてはコスト増加等の影響もあり、依然として厳しい状況が続いている(理容業)。

(鹿児島県日置市商工会 日吉支所)